

第七次鳴門市総合計画策定のための 市民意識調査の概要

目 次

1. 市民意識調査の概要.....	1
1－1 調査の目的.....	1
1－2 調査方法.....	1
1－3 回収状況.....	1
1－4 調査項目.....	2
2. 回答者の属性.....	3
3. 市民意識調査結果まとめ.....	5

1 市民意識調査の概要

1-1 調査の目的

鳴門市都市計画マスタープラン、立地適正化計画、鳴門市総合計画を策定するにあたり、市民生活の現状や将来のまちづくりの方向性を分析し、市民意向を各計画に反映することを目的として実施した。

1-2 調査方法

調査方法は、以下のとおりです。

調査地域	市内全域
調査対象	市内に在住する18歳以上の市民
抽出方法	住民基本台帳(令和3年7月31日現在)より無作為抽出
調査方法	郵送配布／郵送回収
調査期間	令和3年8月20日(金)～令和3年9月2日(木)

1-3 回収状況

回収状況は、以下のとおりです。

母集団(a)	標本数(b)	回収数(c)	抽出率(c/a)	回収率(c/b)
48,681	3,000	987	2.0%	32.9%

1-4 調査項目

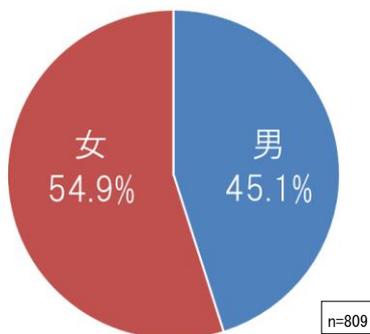
調査項目は、以下のとおりです。

設問	項目
1 あなたご自身について	問1 あなたご自身 問2 あなたの幸福度
2 市への愛着と今後の定住意向について	問3 鳴門市の愛着 問4 今後の定住意向
3 日常生活における活動状況について	問5 自動車の利用 問6 施設の利用頻度、場所、移動手段 問7 活動の満足度と重要度 問8 施設が立地する希望場所
4 人口減少、少子高齢化問題について	問9 お住まいの地域における問題 問10 コンパクトシティの推進 問11 将来暮らしたい場所
5 市のまちづくりの方向性について	問12 鳴門市の将来のまちの姿 問13 今後重点的に整備すべき場所 問14 鳴門市の将来都市像 問15 お住まいの地域の目指すべき姿
6 宅地開発や土地の利用について	問16 宅地開発を制限することに対する考え方 問17 宅地開発と農地や自然環境の保全のあり方
7 鳴門市の中心市街地について	問18 中心市街地でイメージする場所 問19 中心市街地に必要だと思うもの
8 まちの現状と今後の取り組みについて	問20 総合計画の各分野における満足度と重要度 問21 最も力を入れるべき分野
9 市政全般について	問22 市政に対する満足度
10 今後の公共交通のあり方について	問23 公共交通に一番必要だと思うもの 問24 路線バス利用で困っていること
11 自転車の利用について	問25 自転車の利用頻度 問26 自転車の走りやすさの満足度 問27 自宅から目的地までのルートの整備 問28 駐輪場の数、スペースに対する満足度 問29 10年前と比べた自転車の利用環境 問30 自転車の安全に利用するためのルール
12 防災意識と防災対策について	問31 防災マップによる災害リスクや避難所の確認 問32 自身の避難行動に最も参考にする情報手段 問33 最も心配している災害 問34 災害に対する自助・共助・公助 問35 災害時に協力し合える近所のつきあい 問36 災害に強いまちづくりに向け重要と感じる対策
13 その他	自由意見

2 回答者の属性

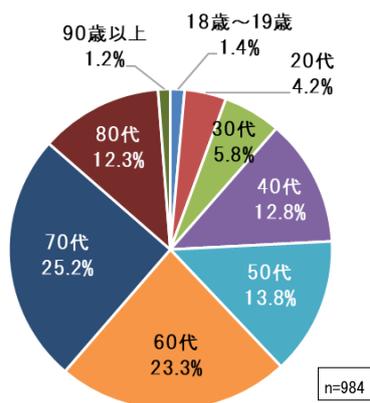
1 性別

○回答者の性別は、男性が45.1%、女性が54.9%となっており、女性が半数以上を占めています。



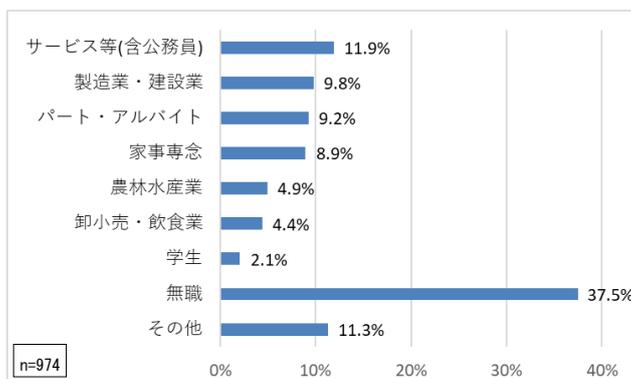
2 年齢

○回答者の年齢は、「70代」が25.2%と最も多く、次いで「60代」の23.3%、「50代」の13.8%となっています。



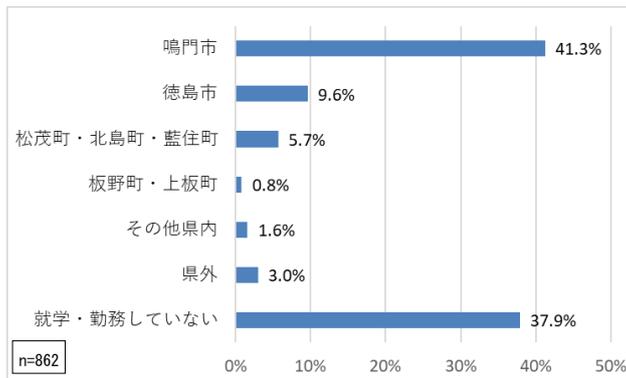
3 現在の職業

○回答者の職業は、「無職」の割合が37.5%で最も高く、次いで「サービス等（含公務員）」の11.9%、「製造業・建設業」で9.8%となっています。



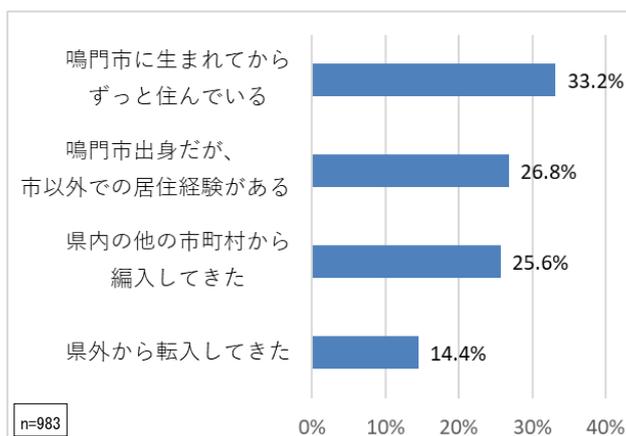
4 就学先・勤務先

○回答者の就学先・勤務先は、「鳴門市」の割合が41.3%と最も多く、次いで「就学・勤務していない」の37.9%、「徳島市」で9.6%となっています。



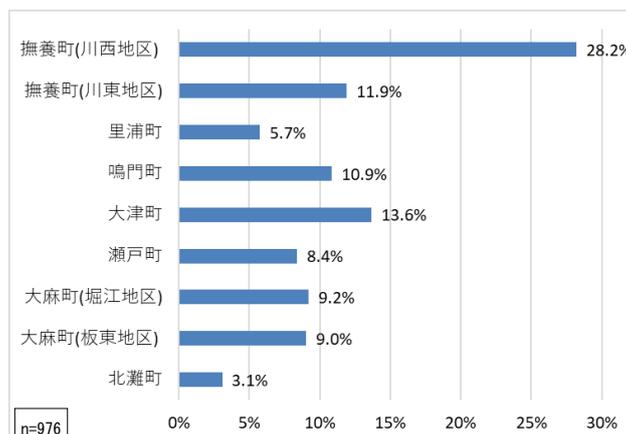
5 居住歴

○回答者の居住歴は、「鳴門市に生まれてからずっと住んでいる」が33.2%と最も高く、次いで「鳴門市出身だが、市以外での居住経験がある」で26.8%となっています。



6 現在の居住地

○回答者の居住地は、「撫養町（川西地区）」が28.2%で最も多く、次いで「大津町」の13.6%、「撫養町（川東地区）」で11.9%となっています。



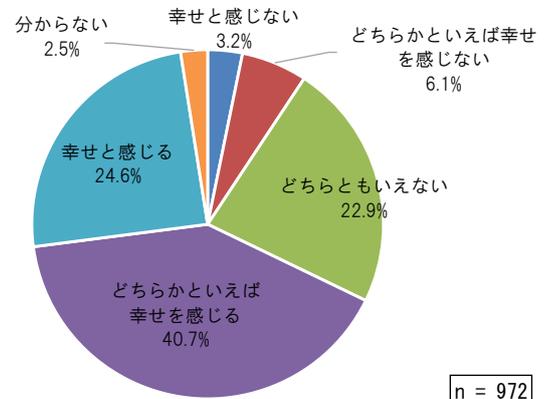
3 市民意識調査結果まとめ

1. まずはじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

問2 あなたの現在の幸福度について

■幸せを感じている方は約6割、幸せを感じていない方は約1割

○「どちらかといえば幸せを感じる」が40.7%と最も多く、次いで「幸せと感じる」が24.6%、「どちらともいえない」が22.9%となっています。



2. 市への愛着、今後の定住意向についておたずねします。

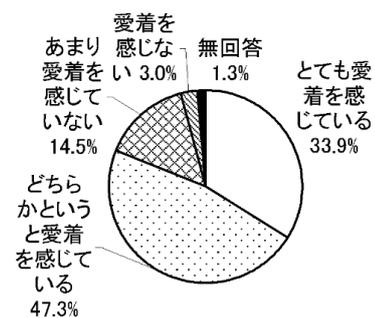
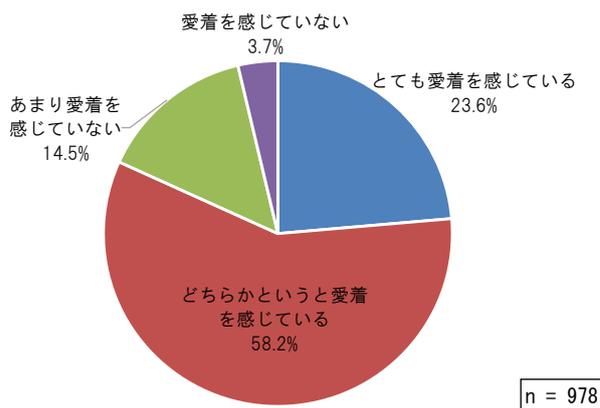
問3 鳴門市に対する「自分のまち」の愛着について

■愛着を感じている方は約8割、愛着を感じていない方は約2割

■とても愛着を感じている方は以前より減少

○「どちらかというと愛着を感じている」が58.2%と最も多く、次いで「とても愛着を感じている」が23.6%、「あまり愛着を感じていない」が14.5%となっています。

○市民まちづくり意識調査報告書（H22）の結果と比較すると、「とても愛着を感じている」が33.9%から23.6%に減少しています。



※右図：市民まちづくり意識調査報告書（H22）

問2、3より

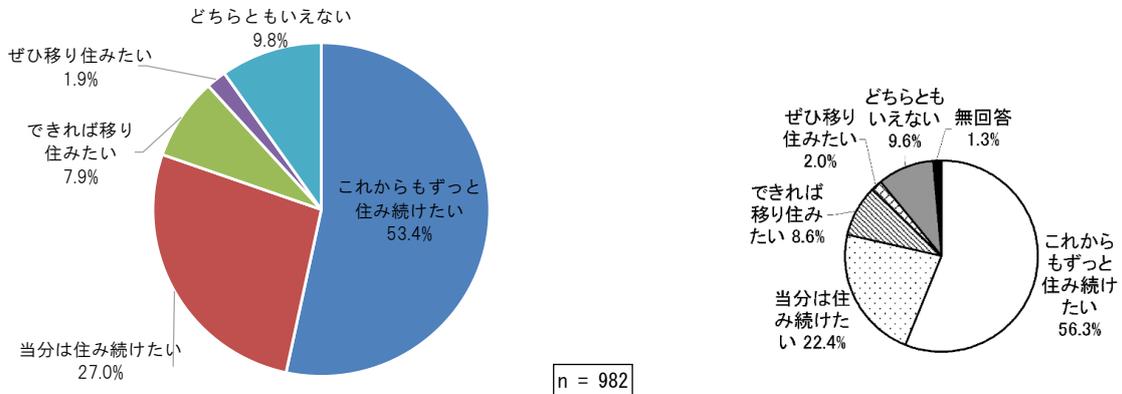


●とても愛着を感じている方の割合が以前より減少していることから、まちへ愛着を感じてもらえるようなまちづくりの展開が重要です。（立地適正化計画における目標値として設定することも検討）

問4 現在の住まいの意向について

■住み続けたいと考えている方は約8割、移り住みたい方は約1割

- 「これからもずっと住み続けたい」が53.4%と最も多く、次いで「当分は住み続けたい」が27.0%、「できれば移り住みたい」が7.9%となっています。
- 市民まちづくり意識調査報告書（H22）の結果と比較すると、大きな変化はみられませんでした。

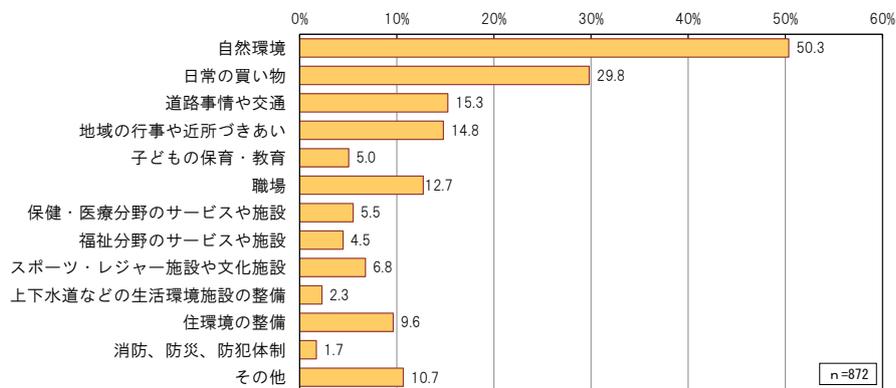


※右図：市民まちづくり意識調査報告書（H22）

問4-①住み続けたい理由について

■自然環境、日常の買物、道路・交通が住み続けたい理由であり、鳴門市の強みでもあると考えられる

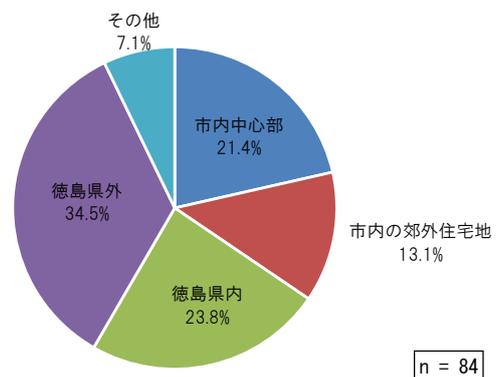
- 「自然環境」が50.3%と最も多く、次いで「日常の買物」が29.8%、「道路事情や交通」が15.3%となっています。



問4-②想定する転居先について ※問4.「3.できれば移り住みたい」、「ぜひ移り住みたい」方だけの回答。

■市内(中心部・郊外住宅)への転居を想定している方は約3割、徳島県外(東京6人、大阪4人など)を想定している方は約3割、徳島県内(徳島市5人、北島町5人、藍住町4人、松茂町3人など)を想定している方は約3割

- 「徳島県外」が34.5%と最も多く、次いで「徳島県内」が23.8%、「市内中心部」が21.4%となっています。



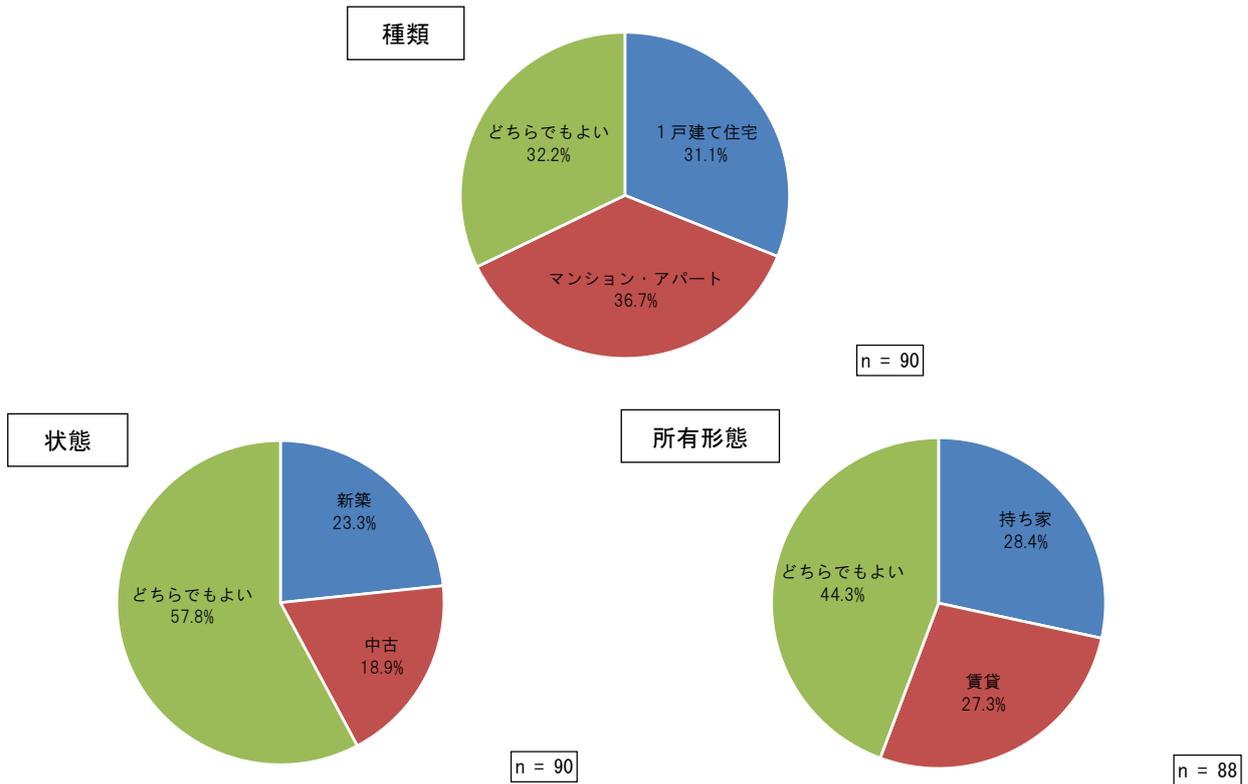
問4-③ 転居先の住宅について ※問4.「3.できれば移り住みたい」、「ぜひ移り住みたい」方だけの回答。

■転居先の種類はマンション・アパートが約3割、一戸建てが約3割、状態は新築が約2割、中古が約1割、所有形態は持ち家が約3割、賃貸が約3割

○種類については、「マンション・アパート」が36.7%と最も多く、次いで「どちらでもよい」が32.2%、「1戸建て住宅」が31.1%。

状態については、「どちらでもよい」が57.8%と最も多く、次いで、「新築」が23.3%、「中古」が18.9%。

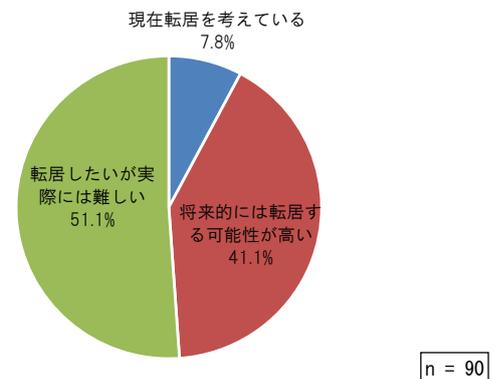
所有形態については、「どちらでもよい」が44.3%と最も多く、次いで、「持ち家」が28.4%、「賃貸」が27.3%です。



問4-④ 転居の実現性について ※問4.「3.できれば移り住みたい」、「ぜひ移り住みたい」方だけの回答。

■転居が難しいと考えている方は約5割(45人程度)、転居を考えている方は約5割(45人程度)

○「転居したいが実際には難しい」が51.1%と最も多く、次いで「将来的には転居する可能性が高い」が41.1%、「現在転居を考えている」が7.8%となっています。

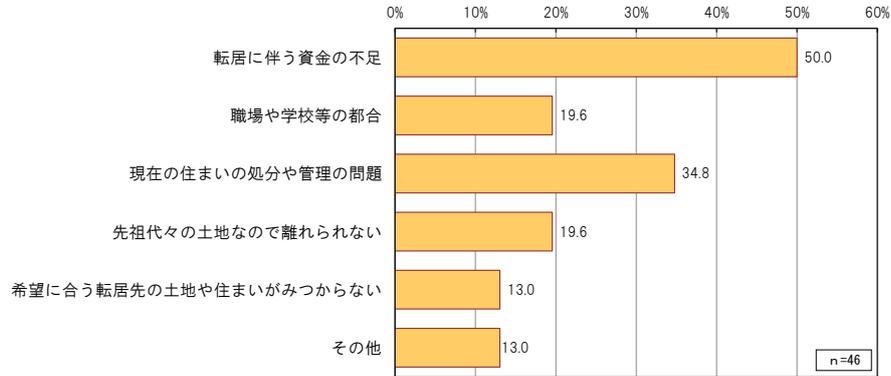


問4-⑤ 転居が難しい理由について(N=46)

※問4.「3.できれば移り住みたい」方だけの回答。

■転居に伴う資金が不足している方は約5割、現在の住まいの処分や管理の問題と考えている方は約3割

○「転居に伴う資金の不足」が50.0%と最も多く、次いで「現在の住まいの処分や管理の問題」が34.8%、「職場や学校等の都合」、「先祖代々の土地なので離れられない」が19.6%となっています。



問4より



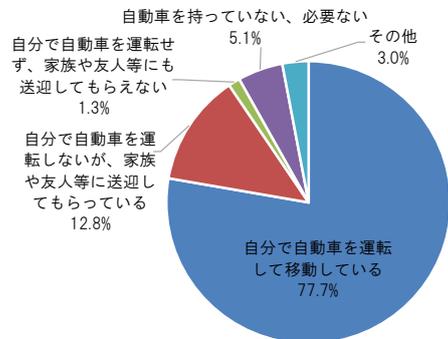
- 自然環境、日常の買い物、道路・交通の利便性が本市の強みであり、それらを活かしたまちづくりの展開が重要です。
- 移り住みたい方の転居先の希望は、6割の方が市外をあげており、市の居住地としての魅力を高め、流出を抑制することが重要です。
- 市内に住み替えしたい方や現在の居住地の処分について問題を抱えている方に対しては、街なか居住を推進(現行都市マスに記載あり)するため、立地適正化計画の居住誘導の考え方のもと、住み替えを促進することが重要です。

3. 日常生活における活動状況についておたずねします。

問5 自動車の利用について(N=975)

■自動車を利用する方は約9割と多い

○「自分で自動車を運転して移動している」が77.7%と最も多く、次いで「自分で自動車を運転しないが、家族や友人等に送迎してもらっている」が12.8%、「自動車を持っていない、必要ない」が5.1%となっています。

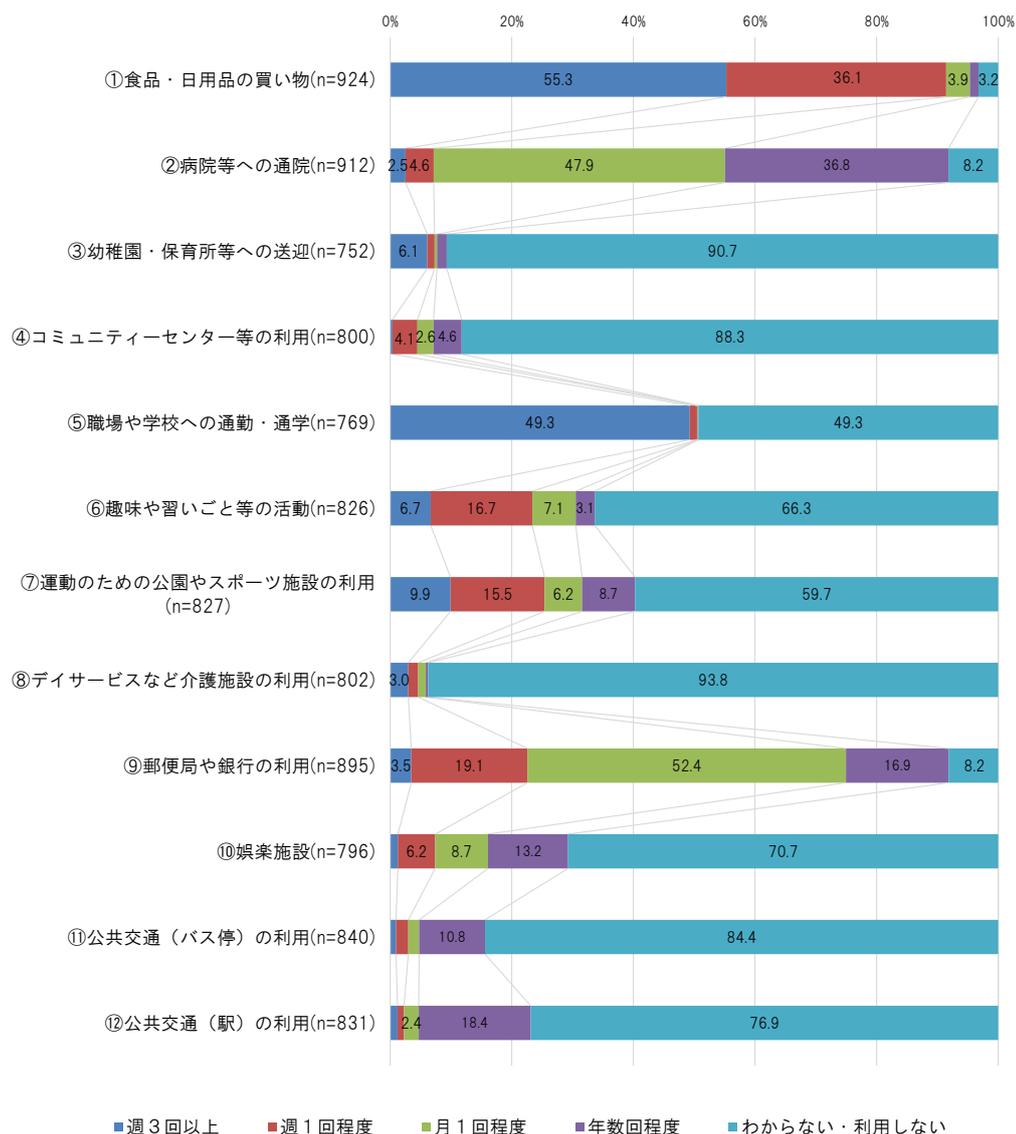


n = 975

問6-① 各施設の利用頻度について

- 食品・日用品の買い物や職場や学校への通勤・通学は割合が多い
- 病院等への通院、郵便局や銀行の利用は月1回以上利用する方は約5割と多い
- 介護施設、幼稚園・保育所の送迎、コミュニティ施設を利用しない方は約9割と多い
- 公共交通（バス停・駅）を月1回以上利用する方は1割未満と少ない

- 「週3回以上」は、「①食品・日用品の買い物」が55.3%と最も多く、次いで「⑤職場や学校への通勤・通学」が49.3%となっています。
- 「週1回程度」は、「①食品・日用品の買い物」が36.1%と最も多く、次いで「⑨郵便局や銀行の利用」が19.1%となっています。
- 「月1回程度」は、「⑨郵便局や銀行の利用」が52.4%と最も多く、次いで「②病院等への通院」が47.9%となっています。
- 「年数回程度」は、「②病院等への通院」が36.8%と最も多く、次いで「⑫公共交通（駅）の利用」が18.4%となっています。
- 「わからない・利用しない」では、「⑧デイサービスなど介護施設の利用」が93.8%と最も多く、「③幼稚園・保育所等への送迎」が90.7%、「④コミュニティ施設等の利用」は88.3%となっています。
- 「公共交通（バス停）の利用」と「公共交通（駅）の利用」は、月1回以上の利用が5%未満となっています。

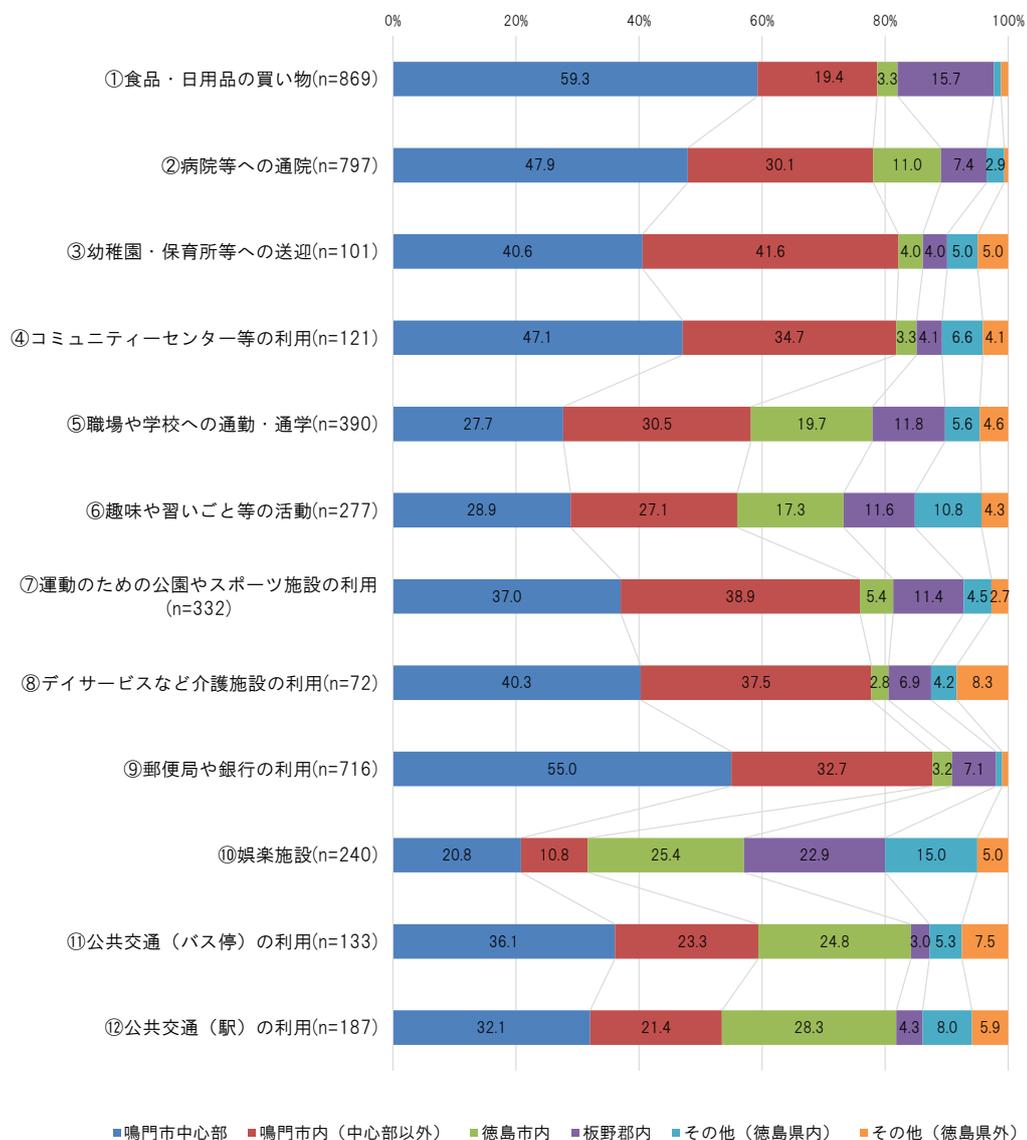


問6-② 各施設を利用する場所について

■食品・日用品の買い物や郵便局や銀行の利用で鳴門市中心部を利用する方は約6割、病院等への通院は約5割と多い

■娯楽施設、公共交通(バス停・駅)、趣味や習いごと等の活動は鳴門市中心部、鳴門市内(中心部以外)、徳島市内、板野郡内など様々な場所で利用されている

- 「鳴門市中心部」は、「鳴門市内(中心部以外)」より「①食品・日用品の買い物」、「⑨郵便局や銀行の利用」、「②病院等への通院」の割合が多いです。
- 「鳴門市中心部」と「鳴門市内(中心部以外)」は、「③幼稚園・保育所等への送迎」、「④コミュニティー施設等の利用」、「⑤職場や学校への通勤・通学」、「⑦運動のための公園やスポーツ施設の利用」、「⑧デイサービスなど介護施設の利用」の割合が同程度となっています。
- 「鳴門市中心部」、「鳴門市内(中心部以外)」、「徳島市内」、「板野郡内」は、「⑤職場や学校への通勤・通学」、「⑩娯楽施設」、「⑪公共交通(バス停)の利用」、「⑫公共交通(駅)の利用」の割合が分散しています。

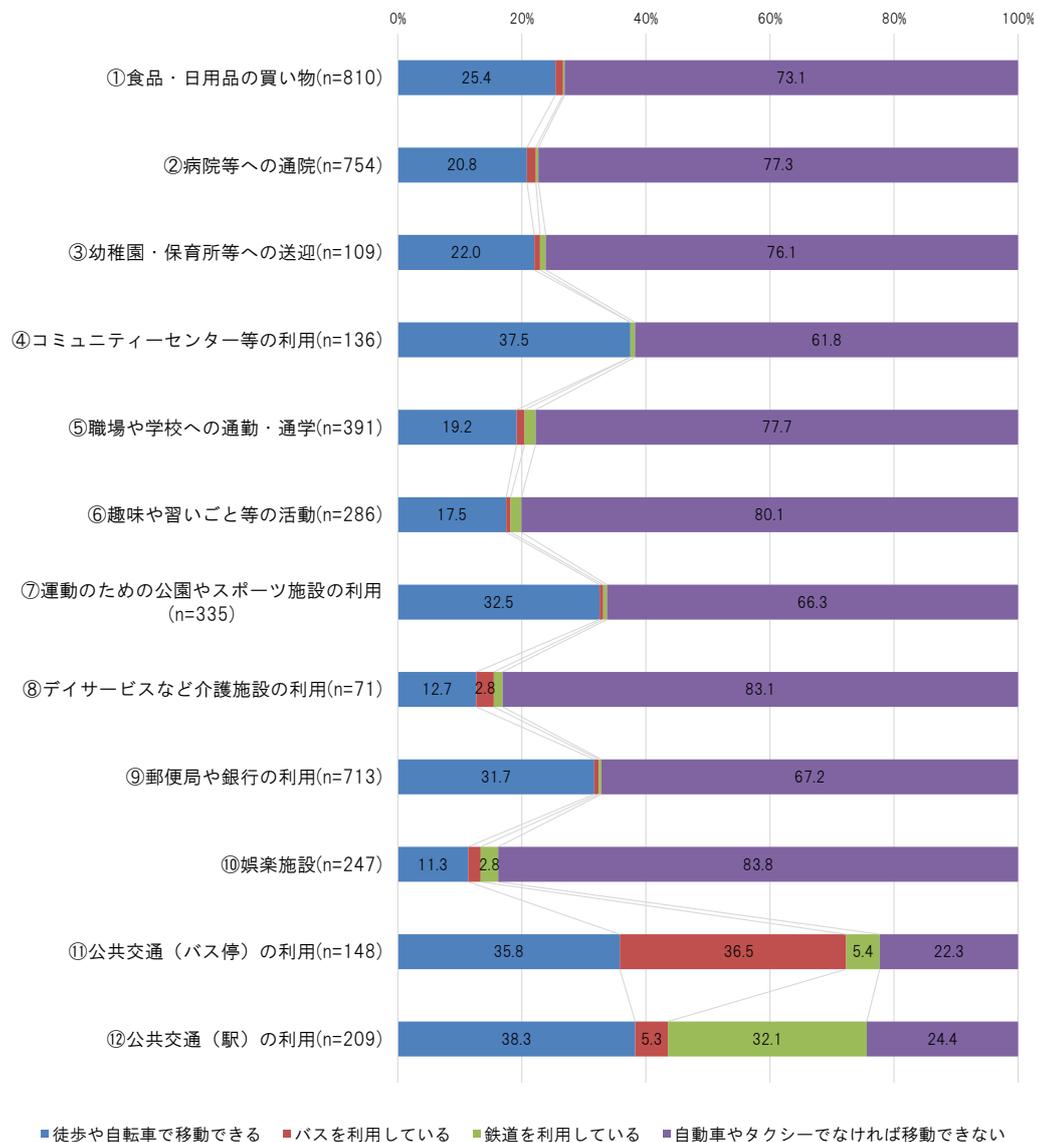


問6-③ 各施設の主な移動手段について

■コミュニティ施設、公園、郵便局・銀行は徒歩圏内に立地し、利用しやすい施設と考えられる

○「自動車やタクシーでなければ移動できない」では、「⑩娯楽施設」が83.8%と最も多く、次いで「⑧デイサービスなど介護施設の利用」が83.1%となっています。

○「徒歩や自転車で移動できる」では、「⑫公共交通（駅）の利用」が38.3%と最も多く、次いで「④コミュニティ施設等の利用」が37.5%、「⑪公共交通（バス停）の利用」は35.8%、「⑦運動のための公園やスポーツ施設の利用」が32.5%となっています。



問5, 6より



- 本市では、自動車の利用が多く、公共交通の利用は少ない状況から、コンパクトなまちづくりを推進するにあたり、公共交通の利用促進や駅を中心としたまちづくりの展開等の検討が重要です。
- 買い物、郵便局や銀行、病院などの利用は、鳴門中心部が多く、これらの都市機能は今後も重要です。

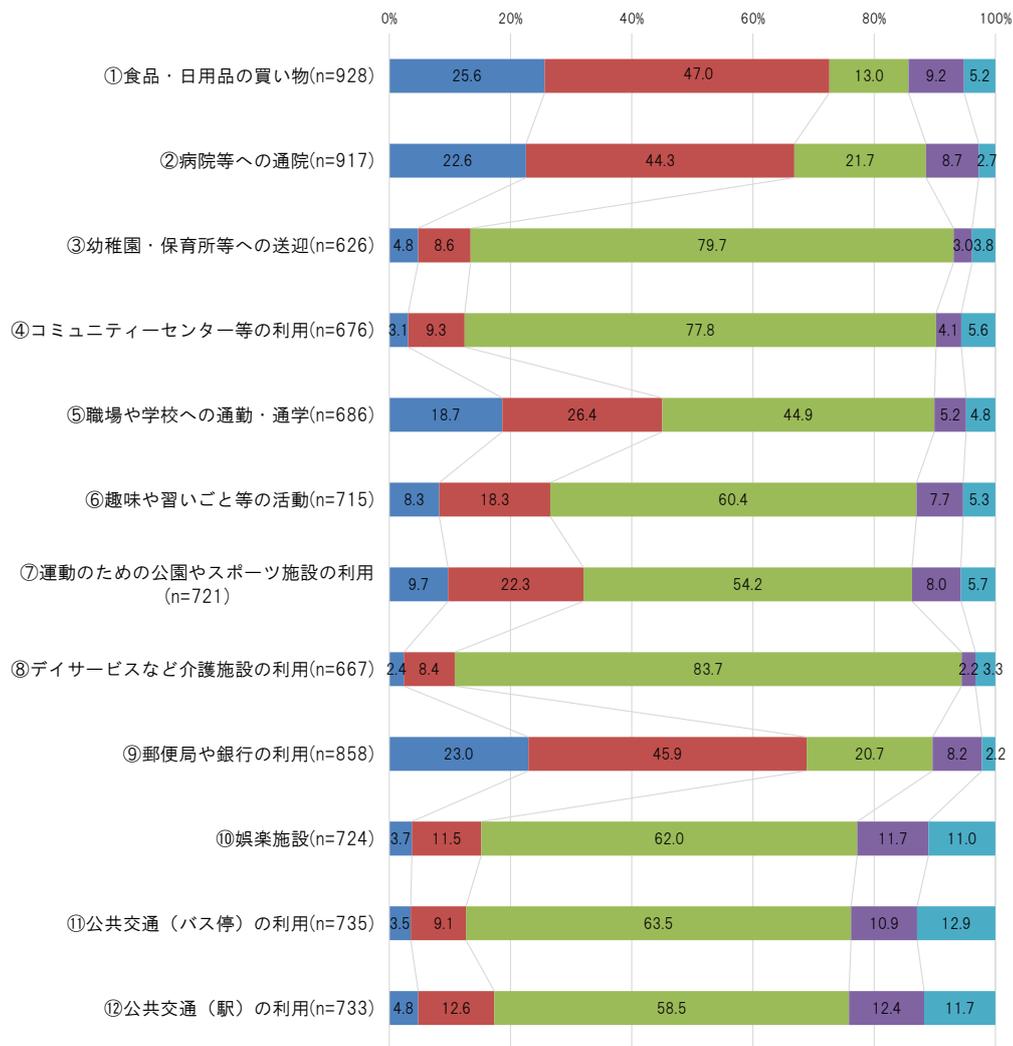
問7 現在のお住まいの地域における活動の満足度と重要度について

①満足度

■買い物、病院、郵便局・銀行の満足度は高く、公共交通(駅・バス停)や娯楽施設に不満がみられる

○「満足している・どちらかといえば満足している」では、「①食品・日用品の買い物」が72.6%と最も多く、次いで「⑨郵便局や銀行の利用」が68.9%となっています。

○「どちらかといえば不満である・不満である」では、「⑫公共交通(駅)の利用」が24.1%と最も多く、次いで「⑪公共交通(バス停)の利用」が23.8%、「⑩娯楽施設」が22.7%となっています。



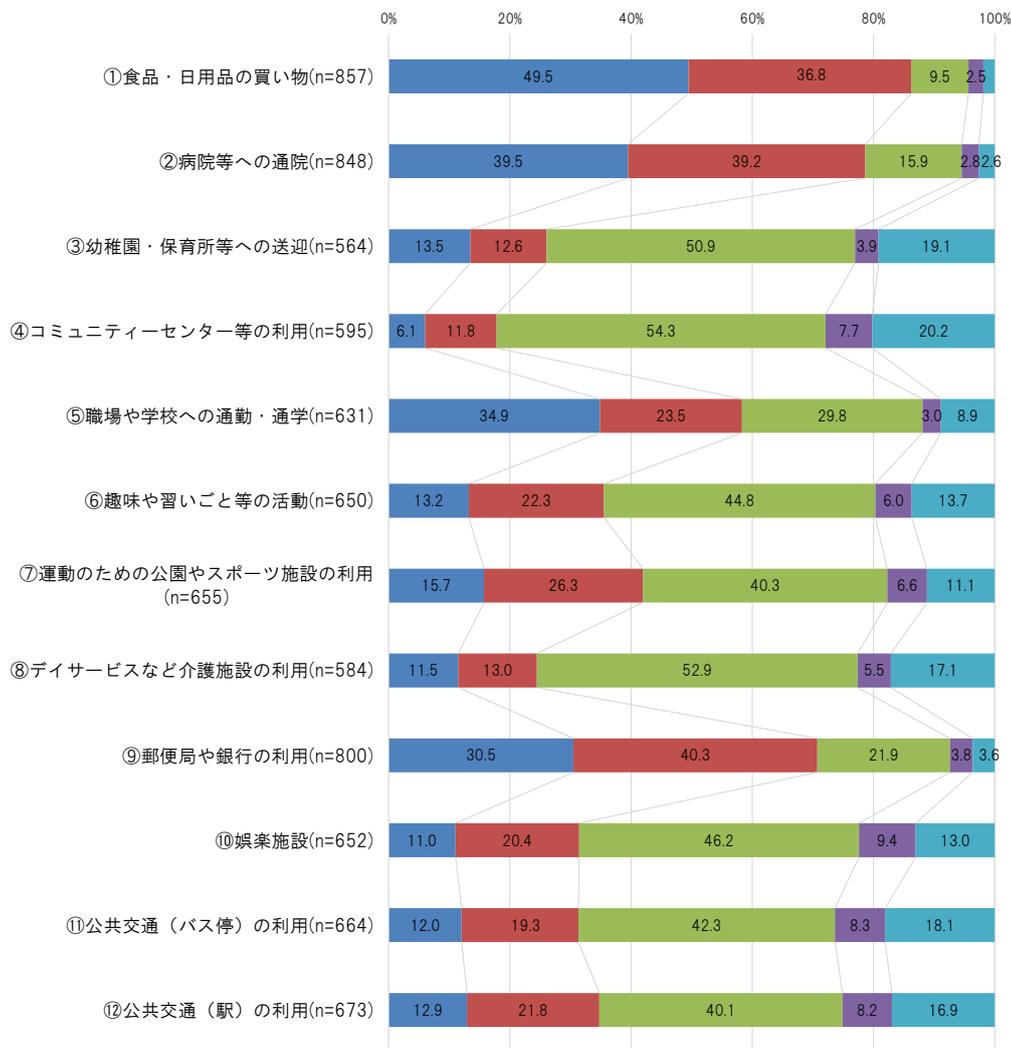
■満足している ■どちらかといえば満足している ■どちらともいえない・行わない ■どちらかといえば不満である ■不満である

②重要度

■買い物、病院、郵便局・銀行、職場や学校、公園の順に重視している

○「重視している・どちらかといえば重視している」では、「①食品・日用品の買い物」が86.2%と最も多く、次いで「②病院等への通院」が78.7%となっています。

○「どちらかといえば重視していない・重視していない」では、「④コミュニティ施設等の利用」が27.9%と最も多く、次いで「⑪公共交通（バス停）の利用」が26.4%となっています。

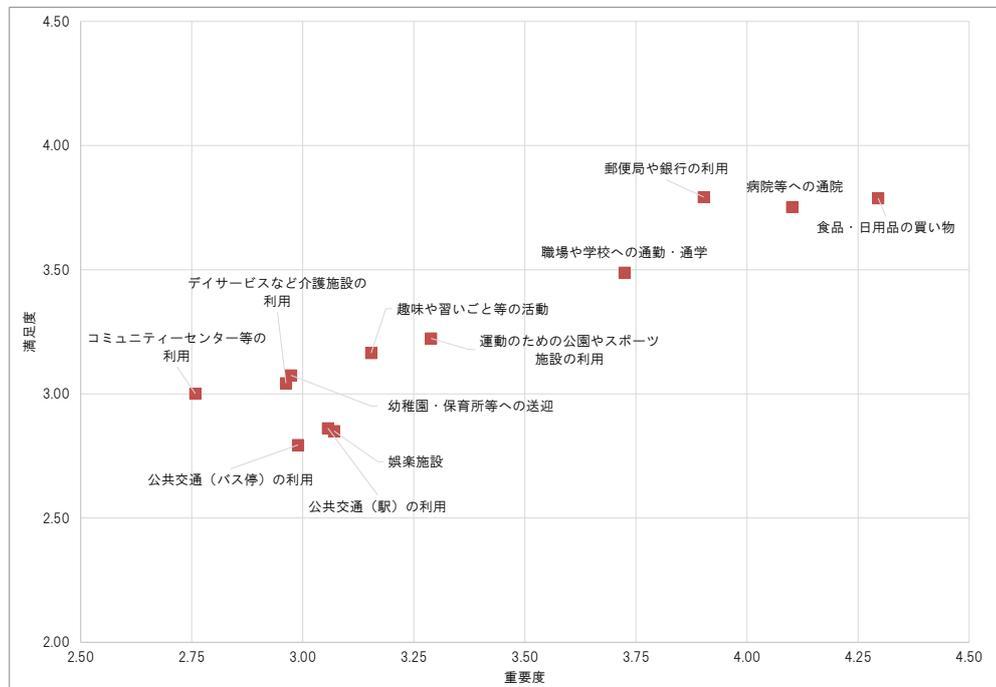


■重視している ■どちらかといえば重視している ■どちらともいえない ■どちらかといえば重視していない ■重視していない

③満足度と重要度

■重要度の高い項目の満足度が高くなる傾向にある

○満足度と重要度を得点化（満足：5点、どちらかといえば満足：4点、どちらともいえない：3点、どちらかといえば不満：2点、不満：1点）し、満足度を縦軸、重要度を横軸に配置すると、重要度の高い項目において、満足度が高くなる傾向を見せている。



問7より



- 市民が重要視している項目の満足度が高い傾向をみせており、市民の期待に沿ったまちづくりが進められていることがうかがえます。
- 公共交通は、他の項目に比べ満足度も重要度も低い状況にありますが、コンパクトなまちづくりに向け、公共交通に関する市民の意識を変えていくことが重要になります。

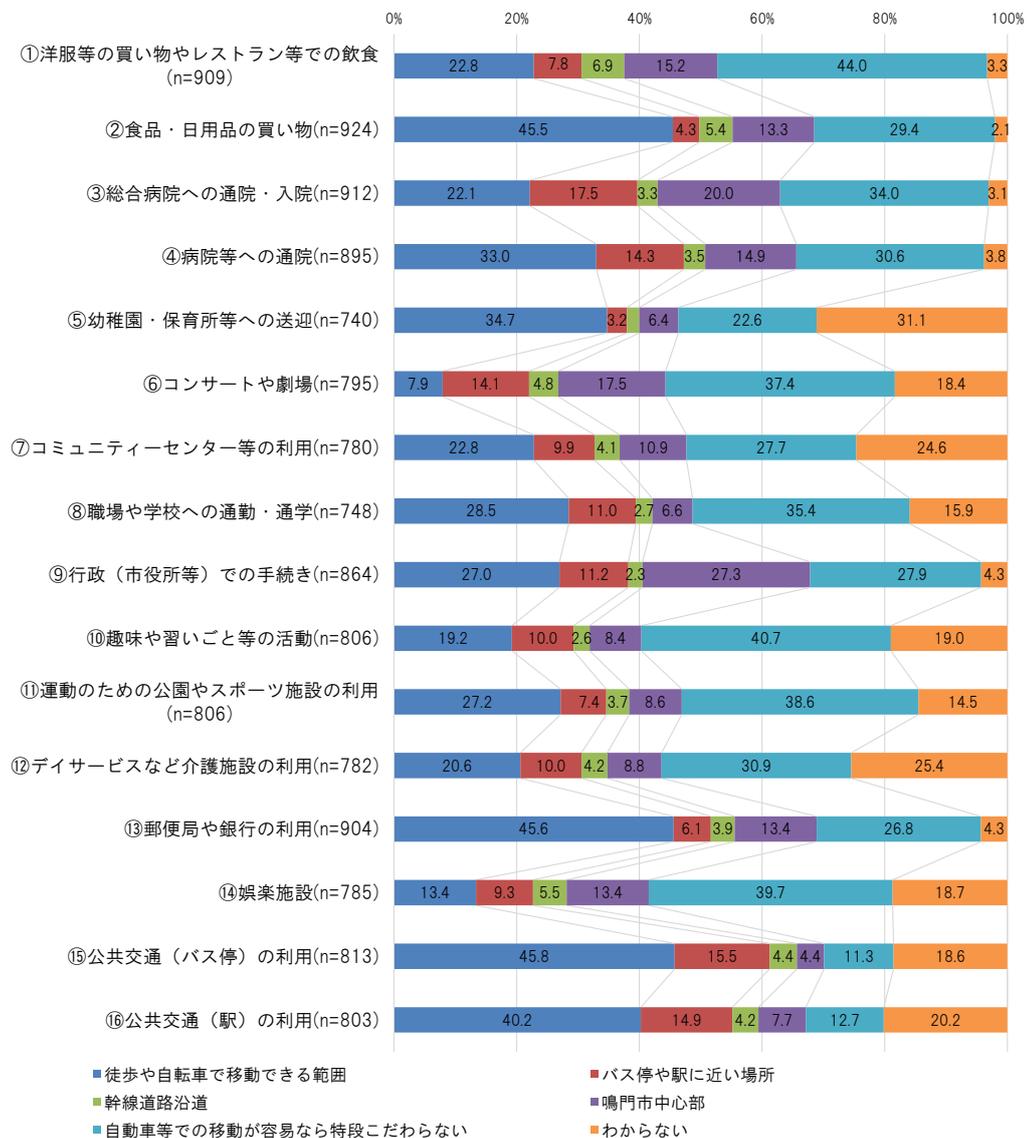
問8 施設の立地場所(どこに立地していると望ましいか)について

■ 徒歩圏内にバス停、郵便局・銀行、買い物できる施設、駅が立地することが望まれている

■ 鳴門市中心部では、行政施設や病院が立地することが望まれている

○ 「徒歩や自転車で移動できる範囲」では、「⑮公共交通（バス停）の利用」が 45.8%と最も多く、次いで「⑬郵便局や銀行の利用」が 45.6%、「②食品・日用品の買い物」が 45.5%となっています。

○ 「鳴門市中心部」では、「⑨行政（市役所等）での手続き」が 27.3%と最も多く、次いで「③総合病院への通院・入院」が 20.0%となっています。



問8より



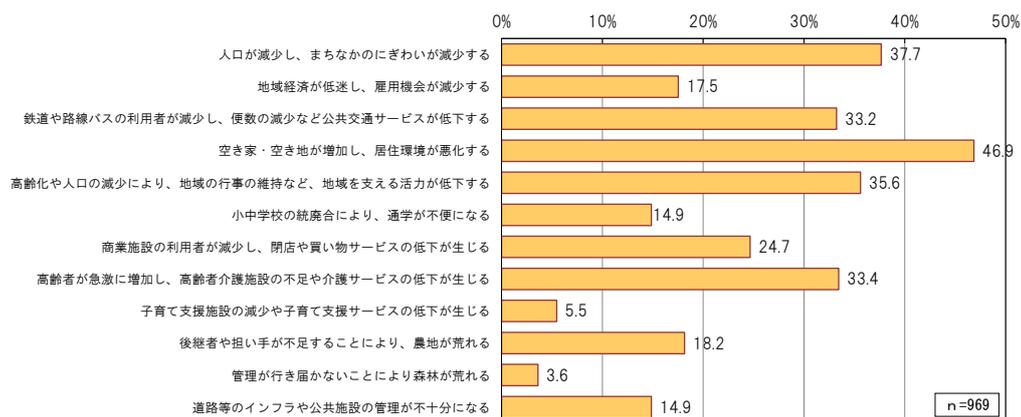
- 徒歩圏内にバス停、郵便局・銀行、買い物できる施設、駅の立地が望まれていることから、それらを踏まえて誘導施設等の設定を検討することが重要です。
- 鳴門市中心部では、行政施設と病院の立地が望まれており、既に中心部に立地していることから、行政施設と病院を含めた誘導区域の設定などの検討が重要です。

4. 人口減少、少子高齢化問題についておたずねします。

問9 人口減少・少子高齢化の進行に伴い、お住まいの地域で将来どのようなことが問題となるか

■空家・空き地の増加、まちの賑わいの低下、地域の活力の低下、介護施設の不足とサービスの低下、公共交通サービスの低下の順に問題視されている

○「空家・空き地が増加し、居住環境が悪化する」が46.9%と最も多く、次いで「人口が減少し、まちなかのにぎわいが減少する」が37.7%、「高齢化や人口の減少により、地域の行事の維持など、地域を支える活力が低下する」が35.6%、「高齢者が急激に増加し、高齢者介護施設の不足や介護サービスの低下が生じる」が33.4%、「鉄道や路線バスの利用者が減少し、便数の減少など公共交通サービスが低下する」が33.2%となっています。



問9より

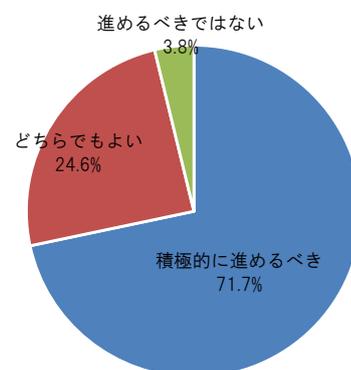


- 空家・空き地の増加、まちの賑わいの低下、地域の活力の低下、介護施設の不足とサービスの低下、公共交通サービスの低下が懸念されており、それぞれの異なる内容において方針や施策等を検討することが重要です。

問10 コンパクトシティの推進について

■コンパクトシティを推進すべきと考える方は約7割

○「積極的に進めるべき」が71.7%、次いで「どちらでもよい」が24.6%、「進めるべきではない」が3.8%です。

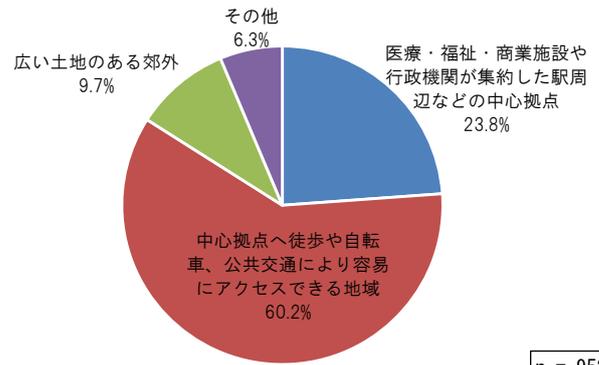


n = 953

問 11 将来暮らしたい場所について

■ **中心市街地の周辺部に居住したい方は約6割、中心部に居住したい方は約2割**

○「中心拠点へ徒歩や自転車、公共交通により容易にアクセスできる地域」が 60.2%と最も多く、次いで「医療・福祉・商業施設や行政機関が集約した駅周辺などの中心拠点」が 23.8%となっています。



n = 952

問 10,11 より



- コンパクトシティを積極的に推進するにあたり、中心部及び中心部へと容易にアクセスができるエリアにおいて、公共交通によるネットワークを意識しつつ、居住を推進する誘導区域等の設定を検討することが重要です。

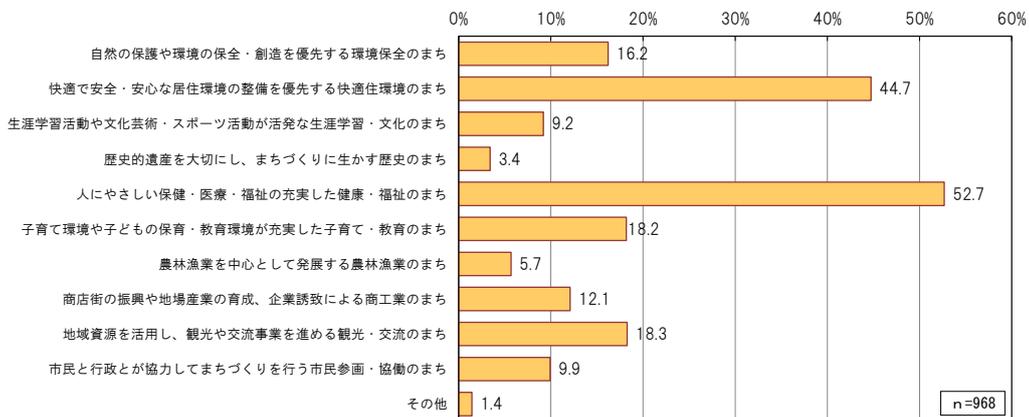
5. 市のまちづくりの方向性についておたずねします。

問 12 鳴門市をどのようなまちにしたいか

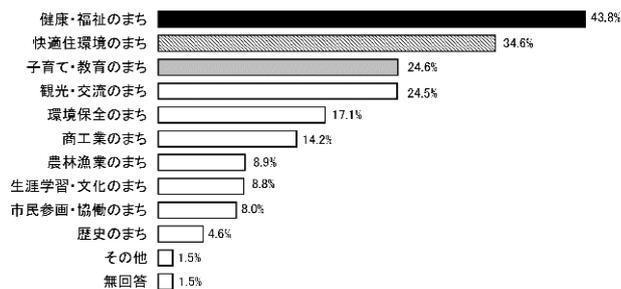
■ **健康・福祉のまち、安全で安心できる快適住環境のまちを望んでいる方は約5割**

○「人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち」が 52.7%と最も多く、次いで「快適で安全・安心な居住環境の整備を優先する快適住環境のまち」が 44.7%となっています。

○市民まちづくり意識調査報告書（H22）の結果と比較すると、順位は大きな変化はみられません。



n=968



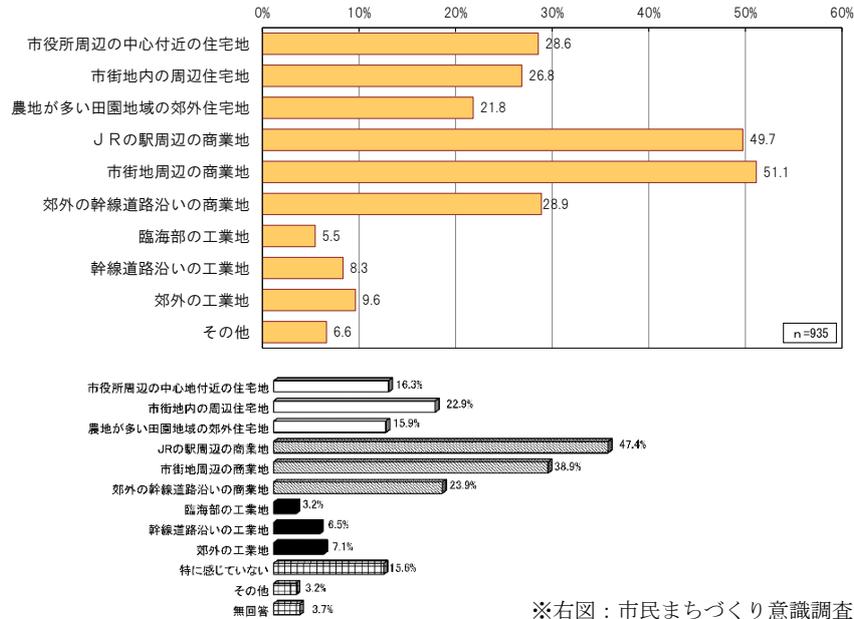
※右図：市民まちづくり意識調査報告書（H22）

問 13 今後重点的に整備を進めることが望ましいと思う場所

■市街地周辺や駅周辺の商業地の整備を望んでいる方は約5割

■市民まちづくり意識調査結果より市街地周辺の商業地の整備を望んでいる方は増加

- 「市街地周辺の商業地」が 51.1%と最も多く、次いで「JRの駅周辺の商業地」が 49.7%となっています。
- 市民まちづくり意識調査報告書（H22）の結果と比較すると、「市街地周辺の商業地」は 38.9%から 51.1%に増加しています。

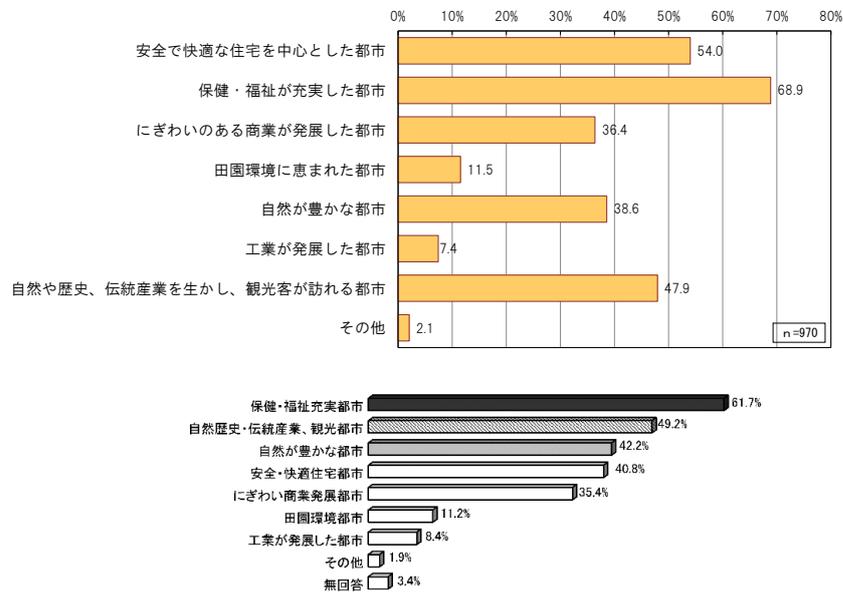


※右図：市民まちづくり意識調査報告書（H22）

問 14 鳴門市が目指すべき将来の都市像

■問 12と同様な回答ではあるが、問 12との違いとして、観光客が訪れる都市を望んでいる方は約5割

- 「保健・福祉が充実した都市」が 68.9%と最も多く、次いで「安全で快適な住宅を中心とした都市」が 54.0%、「自然や歴史、伝統産業を生かし、観光客が訪れる都市」が 47.9%となっています。
- 市民まちづくり意識調査報告書（H22）の結果と比較すると、大きな変化はみられませんでした。「安全で快適な住宅を中心とした都市」の回答者が増加しており、災害に対する意識が高まっていると考えられます。



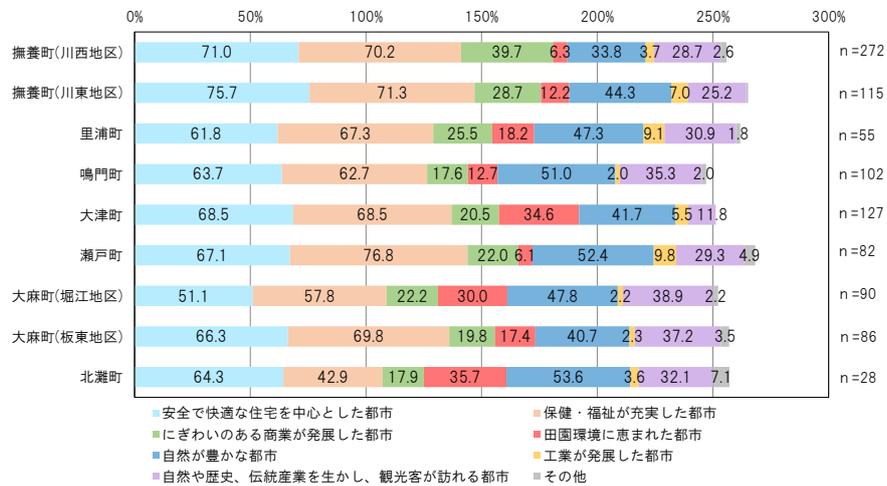
※右図：市民まちづくり意識調査報告書（H22）

問 15 お住まいの地域が目指す姿

■各地域で保健・福祉、安全で快適なまちが求められている

○地域別にみても「保健・福祉が充実した都市」と「安全で快適な住宅を中心とした都市」の回答比率が高くなっています。

○撫養町の「商業」、北灘町の「自然」など他の地域より高い傾向を見せている項目も見受けられます。



問 12,13,14,15 より



- 福祉の充実したまち、安全(災害)で快適な住環境のまち、観光客が訪れるまちが将来的に望まれているため、これらの意見を踏まえながら本計画の基本理念や将来都市構造などを設定することが重要です。
- 各地域の特性や市民意向を踏まえたまちづくりの方向性を検討していくことが重要です。

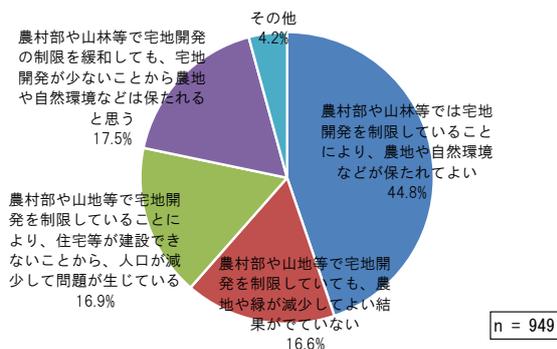
6. 宅地開発や土地の利用についておたずねします。

問 16 宅地開発の制限についての考え方

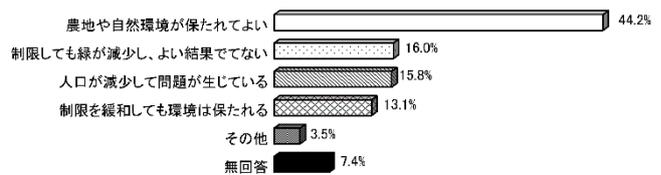
■宅地開発の制限をしていることにより、農地や自然環境などが保たれてよいと考えている方は約4割

○「農村部や山林等では宅地開発を制限していることにより、農地や自然環境などが保たれてよい」が 44.8%と最も多く、次いで「農村部や山林等で宅地開発の制限を緩和しても、宅地開発が少ないことから農地や自然環境などは保たれると思う」が 17.5%となっています。

○市民まちづくり意識調査報告書 (H22) の結果と比較すると、大きな変化はみられませんでした。



n = 949

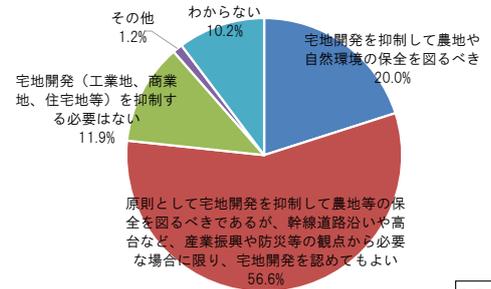


※右図：市民まちづくり意識調査報告書 (H22)

問 17 宅地開発と農地や自然環境の保全のあり方

■産業振興や防災等の観点から必要な場合に限り宅地開発を認めてもよいと考えている方は約6割、宅地開発を抑制して自然環境を保全すべきと考えている方は約2割

○「原則として宅地開発を抑制して農地等の保全を図るべきであるが、幹線道路沿いや高台など、産業振興や防災等の観点から必要な場合に限り、宅地開発を認めてもよい」が56.6%と最も多く、次いで「宅地開発を抑制して農地や自然環境の保全を図るべき」が20.0%となっています。



n = 948

問 16,17 より



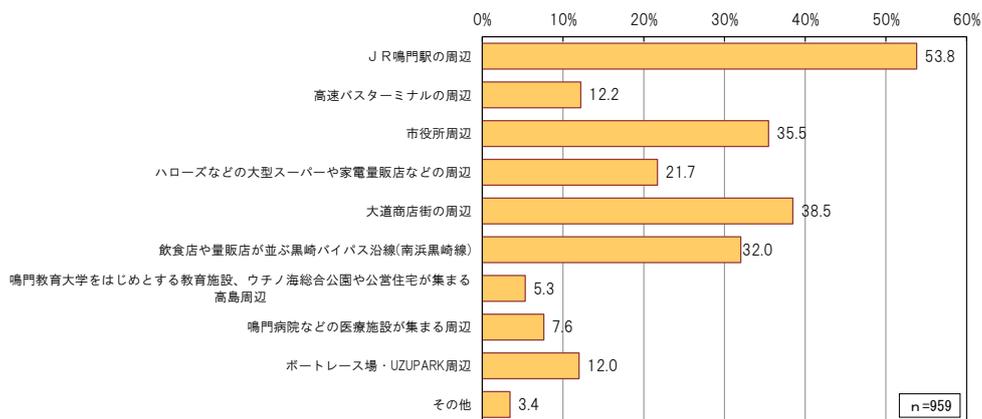
- 基本的には、新たな開発を求める意向は少なく、自然環境や農地の保全を進めていくことが重要です。
- 開発については、産業振興や防災等の観点からまちづくりに資するものとして、計画的に検討していくことが重要です。

7. 鳴門市の中心市街地についておたずねします。

問 18 鳴門市内の中心市街地のイメージ

■JR鳴門駅、大道商店街、市役所、黒崎バイパスの順に中心市街地がイメージされている

○「JR鳴門駅の周辺」が53.8%と最も多く、次いで「大道商店街の周辺」が38.5%、「市役所周辺」が35.5%、「飲食店や量販店が並ぶ黒崎バイパス沿線（南浜黒崎線）」が32.0%となっています。

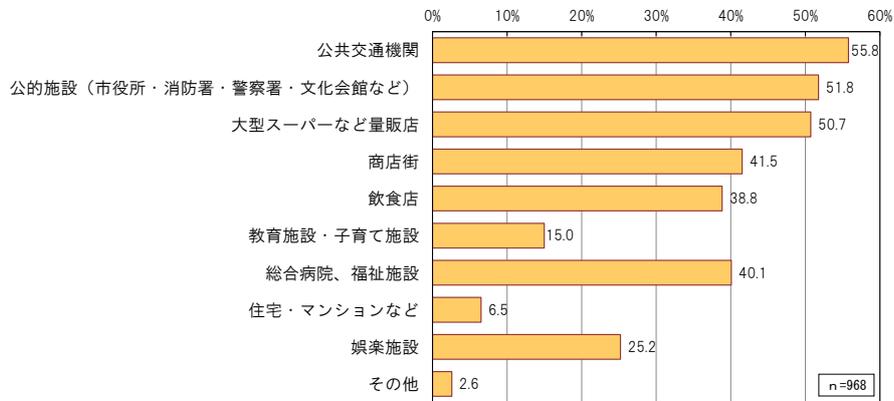


n=959

問 19 中心市街地に必要な施設

■公共交通機関、公的施設、大型スーパーなどの量販店の順に中心市街地に必要と考えられている

○「公共交通機関」が 55.8%と最も多く、次いで「公的施設（市役所・消防署・警察署・文化会館など）」が 51.8%、「大型スーパーなど量販店」が 50.7%となっています。



問 18,19 より

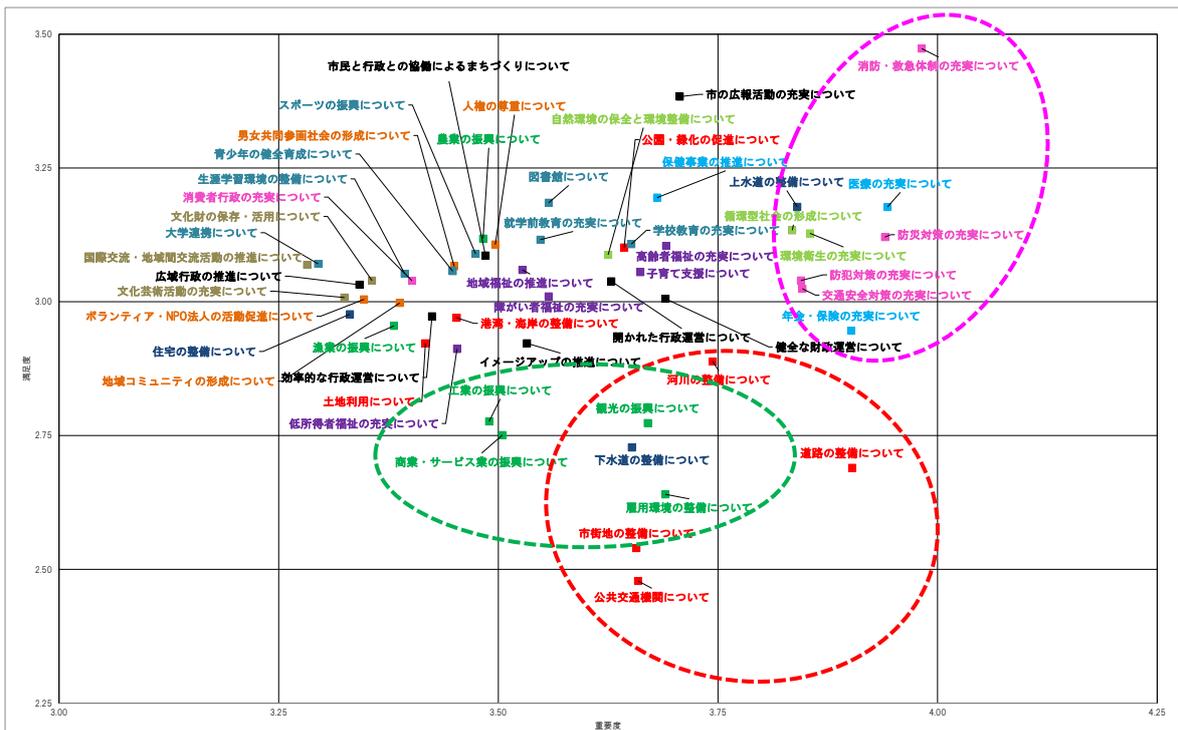


- 中心市街地は、鳴門駅には公共交通機関、市役所には公的施設、黒崎バイパスには大型スーパーなどの量販店が必要と想定されることから、既存の公共交通機関や市役所を維持・充実することや大型商業施設の維持や誘導が求められていると考えられます(これらの意見を参考に誘導施設について検討)。

8. まちの現状と今後の取り組みについておたずねします。

問 20 総合計画の各分野の現状の満足度と今後の重要度

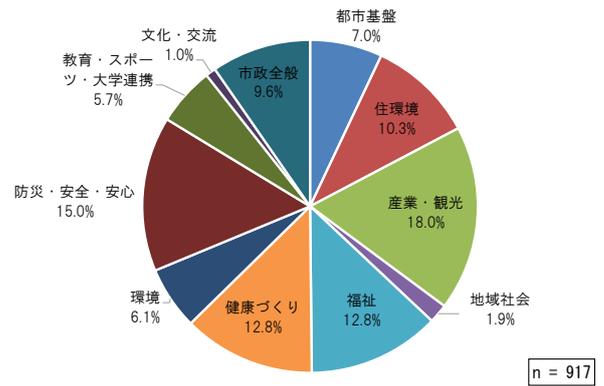
■「8 防災・安全・安心」(ピンク)は満足度・重要度が高い傾向、「1 都市基盤」(赤)や「3 産業・観光」(緑)は重要度が高いものの、満足度は低い傾向



問 21 総合計画の各分野で最も力を入れるべき分野

■産業・観光、防災・安全・安心、福祉、健康づくりの順に力を入れるべきと感じている方が多い

○「産業・観光」が18.0%と最も多く、次いで「防災・安全・安心」が15.0%、「福祉」、「健康づくり」が12.8%となっています。



問 20,21 より



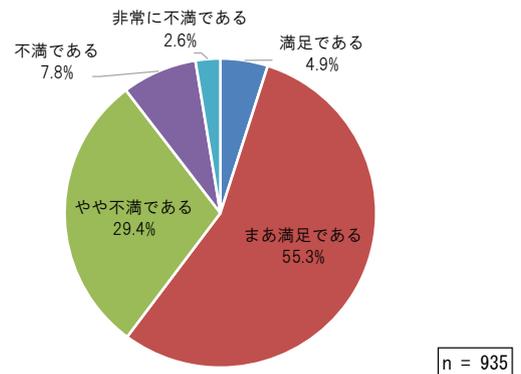
- 総合計画の各分野では、「産業・観光」、「防災・安全・安心」、「福祉」、「健康づくり」の順に重視されています。本計画においても上記の分野については、重点的な施策を行うものとして検討を行います。

9. 市政全般についておたずねします。

問 22 市政に対する満足度

■市政に満足している方は約6割、不満な方は約4割

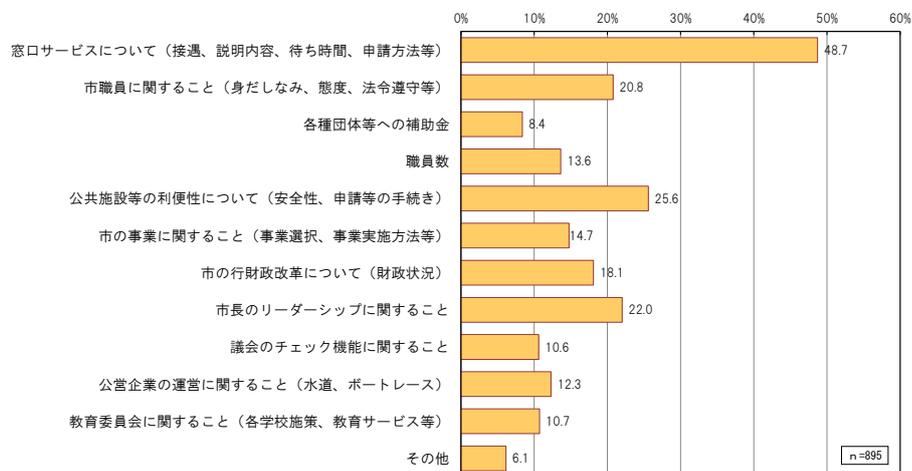
○「まあ満足である」が55.3%と最も多く、次いで「やや不満である」が29.4%、「不満である」が7.8%となっています。



問 22-① 問 22 を評価した理由として満足・不満な分野

■窓口サービスに不満がある方は約5割

○「窓口サービスについて（接遇、説明内容、待ち時間、申請方法等）」が48.7%と最も多く、次いで「公共施設等の利便性について（安全性、申請等の手続き）」が25.6%、「市長のリーダーシップに関する事」が22.0%となっています。

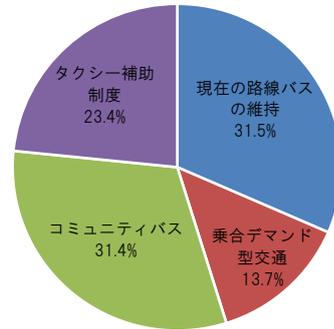


10. 今後の公共交通のあり方についておたずねします。

問 23 公共交通に一番必要と思うもの

■路線バスの維持やコミュニティバスが必要と感じている方は約3割

- 「現在の路線バスの維持」が31.5%と最も多く、次いで「コミュニティバス」が31.4%、「タクシー補助制度」が23.4%となっています。

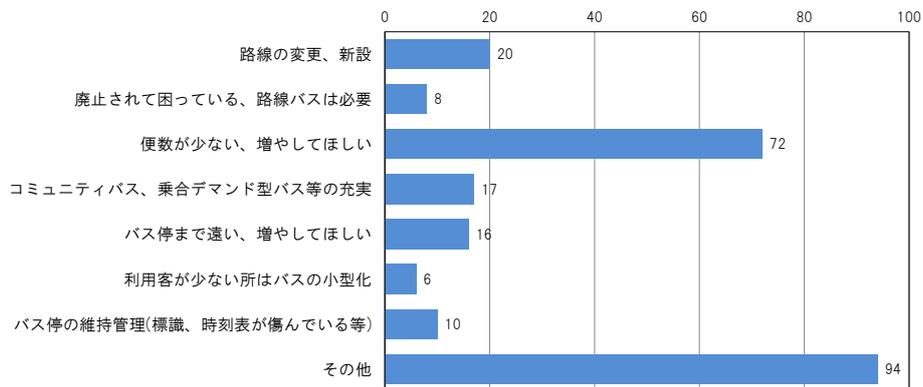


n = 923

問 24 路線バス利用で困っていること

■路線バスの便数が少ないため増やしてほしいという回答数が多い

- 路線バス利用で困っていることについて、意見を分類して整理しました。「便数が少ない、増やしてほしい」が72回答と最も多く、「路線の変更、新設」が20回答、「コミュニティバス、乗合デマンド型バス等の充実」が17回答、「バス停まで遠い、増やしてほしい」が16回答、「バス停まで遠い、増やしてほしい」が16回答となっています。



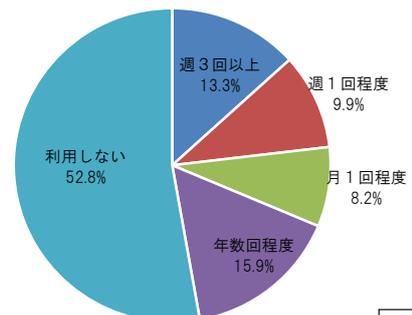
n=243

11. 自転車の利用について、おたずねします。

問 25 自転車の利用頻度

■自転車を利用しない方は約5割

- 「利用しない」が52.8%と最も多く、次いで「年数回程度」が15.9%、「週3回以上」が13.3%となっています。

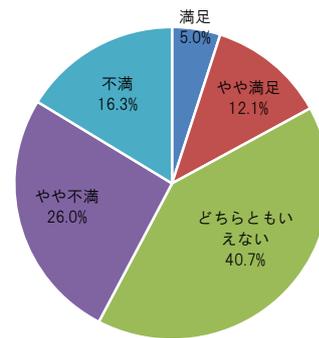


n = 964

問 26 自転車の走りやすさ(安全性や快適性)の満足度

■走りやすさの満足度では、どちらともいえないと感じている方は約4割、不満な方は約4割

○「どちらともいえない」が40.7%と最も多く、次いで「やや不満」が26.0%、「不満」が16.3%となっています。

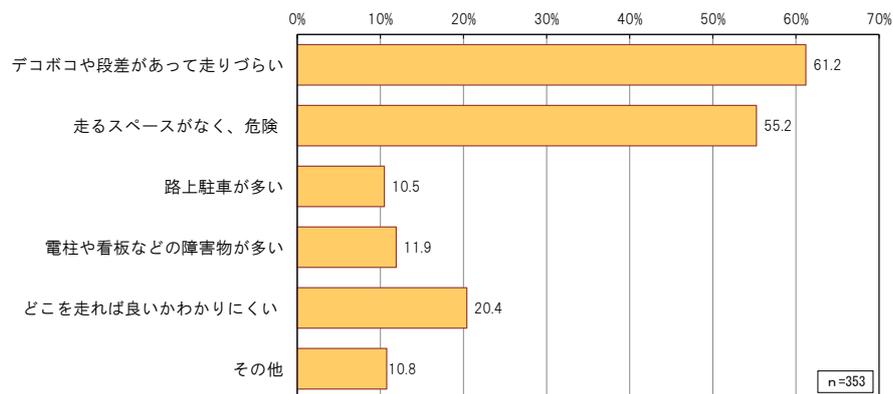


n = 787

付問 どのような点が不満であるか

■デコボコや段差があって走りづらいと感じている方は約6割、走るスペースがなく危険と感じている方は約5割

○「デコボコや段差があって走りづらい」が61.2%と最も多く、次いで「走るスペースがなく、危険」が55.2%となっています。

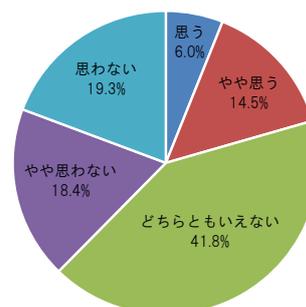


n=353

問 27 自宅から目的地に向かうまでのルートは自転車が走行しやすい道路が整備されているか

■自転車が走行しやすい道路整備が行われていると思わないと感じている方は約4割

○「どちらともいえない」が41.8%と最も多く、次いで「思わない」が19.3%、「やや思わない」が18.4%となっています。

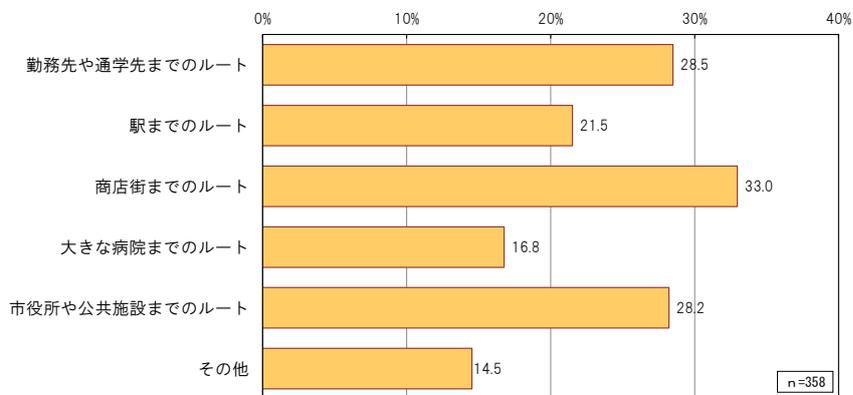


n = 794

付問 整備してほしいルート

■商店街や市役所に向かうルートの整備は約3割の方が回答

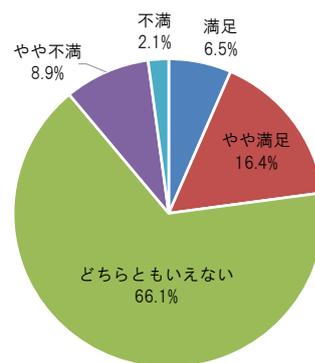
○「商店街までのルート」が33.0%と最も多く、次いで「勤務先や通学先までのルート」が28.5%、「市役所や公共施設までのルート」が28.2%となっています。



問 28 駐輪場の数、スペースの満足度

■駐輪場の数やスペースに満足している方は約2割、不満な方は1割

○「どちらともいえない」が66.1%と最も多く、次いで「やや満足」が16.4%となっています。

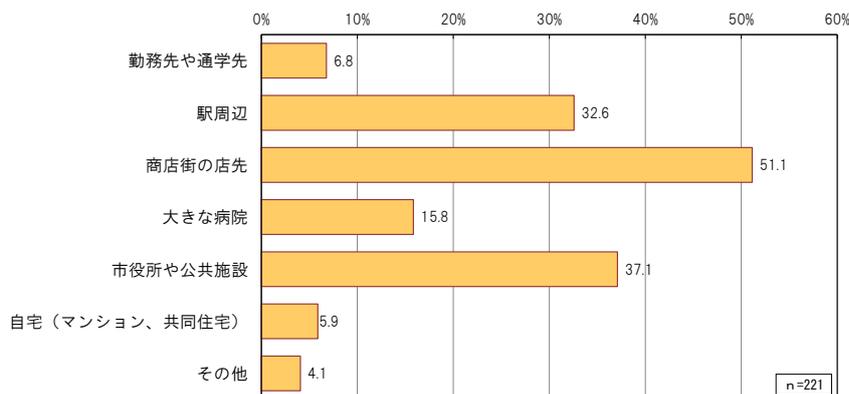


n = 752

付問 設置してほしい駐輪施設の場所

■駐輪施設は、商店街の店先への設置を望んでいる方は約5割、市役所や公共施設、駅周辺の設置を望んでいる方は約3割

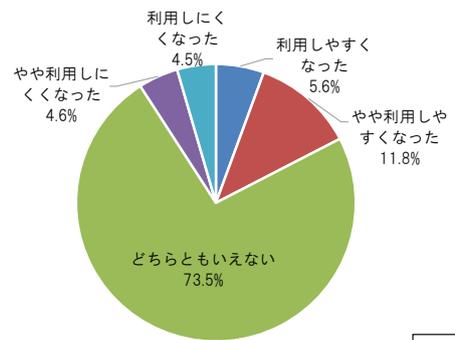
○「商店街の店先」が51.1%と最も多く、次いで「市役所や公共施設」が37.1%、「駅周辺」が32.6%となっています。



問 29 10年前と比べて鳴門市内で自転車を利用する環境の
変化

■自転車を利用する環境は利用しやすくなったは約2割、利用しにくくなったは約1割の方が回答

○「どちらともいえない」が73.5%と最も多く、次いで「やや利用しやすくなった」が11.8%となっています。

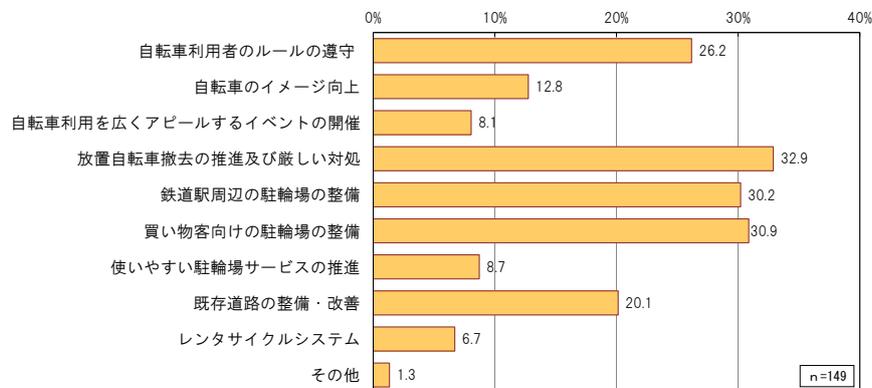


n = 737

付問 どのような点で自転車を利用する環境は良くなったか

■放置自転車撤去の推進や買い物客向けの駐輪場整備、鉄道駅周辺の駐輪場整備は約3割の方が回答

○「放置自転車撤去の推進及び厳しい対処」が32.9%と最も多く、次いで「買い物客向けの駐輪場の整備」が30.9%、「鉄道駅周辺の駐輪場の整備」が30.2%となっています。



n=149

問 30 自転車を安全に利用するために知っているルール

■自転車を利用する上で、夜間のライト点灯、二人乗り・並列の禁止、運転しながら携帯電話等の操作をしない、飲酒運転をしないは約9割の方が知っている

○「夜間のライトの点灯」が94.1%と最も多く、次いで「二人乗り・並進の禁止」が93.6%、「運転しながら携帯電話等を操作しない」が93.4%、「飲酒運転をしない」が91.2%となっています。



n=818

問 25~30 より



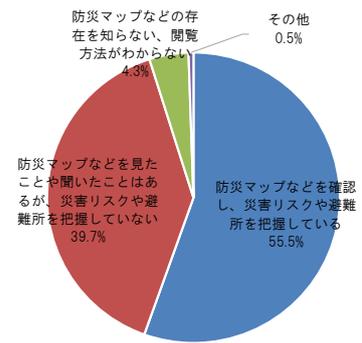
- 自転車が走行しやすい道路環境や商店街や市役所等に向かうルート整備などが望まれており、鳴門市自転車活用推進計画の推進、中心市街地における回遊性の向上、歩道の整備等を図ることが重要です。

12. 防災意識と防災対策について

問 31 防災マップなどでお住まい周辺の災害リスクや避難所の把握

■災害リスクや避難所を把握している方は約5割、把握していない方は約4割

○「防災マップなどを確認し、災害リスクや避難所を把握している」が55.5%と最も多く、次いで「防災マップなどを見たことや聞いたことはあるが、災害リスクや避難所を把握していない」が39.7%となっています。

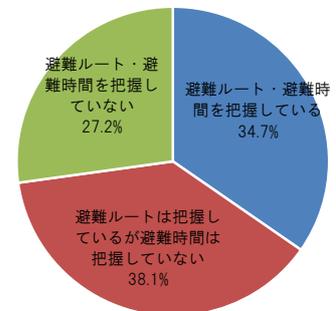


n = 925

付問 自宅から避難所までの避難ルート、避難時間の把握

■避難ルートを把握している方は約7割、避難ルートと避難時間を把握していない方は約3割

○「避難ルートは把握しているが避難時間は把握していない」が38.1%と最も多く、次いで「避難ルート・避難時間を把握している」が34.7%、「避難ルート・避難時間を把握していない」が27.2%となっています。

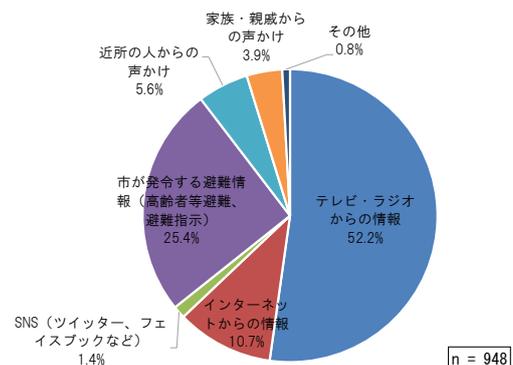


n = 882

問 32 自身の避難行動を決定するのに最も参考になるもの

■避難行動の参考となるものはテレビ・ラジオからの情報は約5割、市が発令する避難情報は約3割

○「テレビ・ラジオからの情報」が52.2%と最も多く、次いで「市が発令する避難情報（高齢者等避難、避難指示）」が25.4%となっています。



n = 948

問 31,32 より

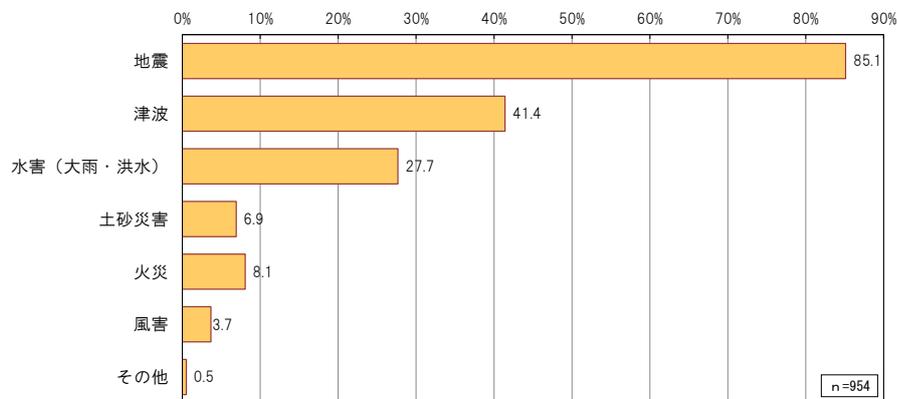


- 災害リスクや避難所・避難ルートを把握している方は過半数を超えているが、約3～4割の方はまだ把握していないことから防災意識の向上に向けた施策を検討するなど日頃の備えを充実することが重要です。

問 33 最も心配している災害

■地震を心配している方は約8割、津波は約4割

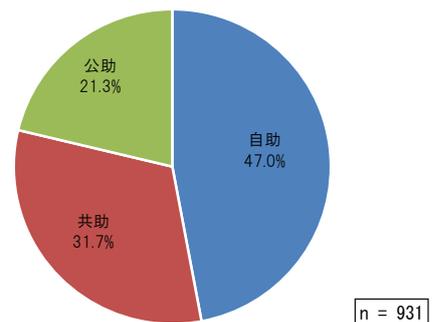
○「地震」が85.1%と最も多く、次いで「津波」が41.4%、「水害（大雨・洪水）」が27.7%となっています。



問 34 自助・共助・公助どれに重点をおくべきか

■自助は約5割、共助は約3割の方が回答

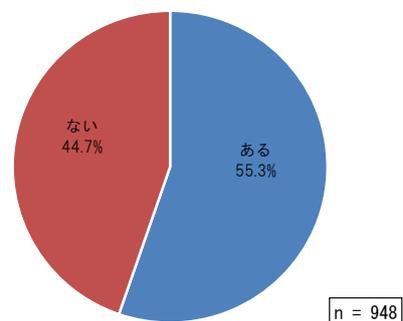
○「自助」が47.0%と最も多く、次いで「共助」が31.7%、「公助」が21.3%です。



問 35 災害時に協力し合える近所づきあいはあるか

■近所づきあいがある方は約5割

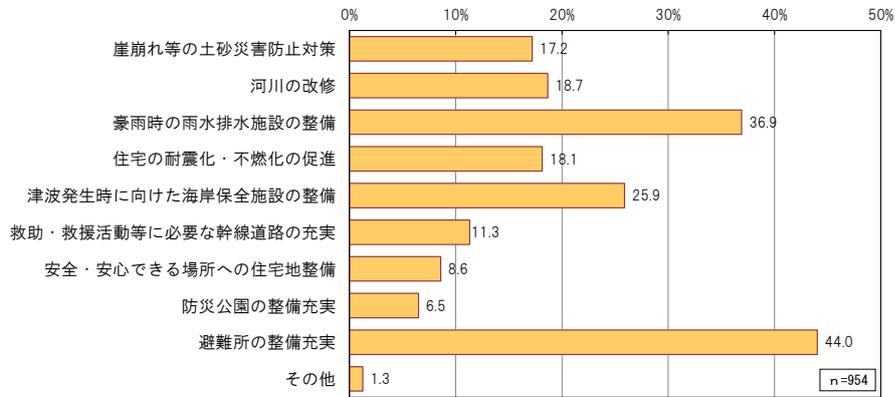
○「ある」が55.3%、「ない」が44.7%です。



問 36 災害に強いまちづくりに向けた対策

■避難所の整備充実が約4割、豪雨時の雨水排水施設の整備は約4割

○「避難所の整備充実」が44.0%と最も多く、次いで「豪雨時の雨水排水施設の整備」が36.9%、「津波発生時に向けた海岸保全施設の整備」が25.9%となっています。



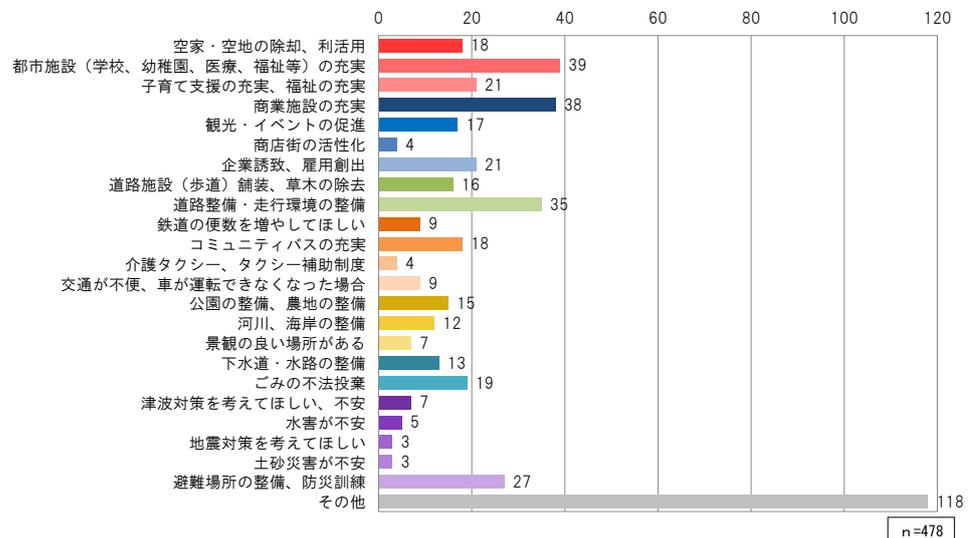
問 33,34,35,36 より

- 災害リスクは地震・津波の心配が多くなっており、特に避難所の整備充実や豪雨時の雨水排水施設の整備などが求められています。災害に強いまちづくりに向けて、自助・共助のもと、地震、津波、洪水、避難などハード・ソフトによる総合的な防災施策が重要です。

13. その他（自由意見等）

■都市施設の充実、商業施設の充実、道路整備・走行環境の整備、避難場所の整備・防災訓練の順に回答数が多い

○自由意見は、都市計画マスタープランの土地利用（赤系）、産業（濃青系）、道路（緑系）、公共交通（橙系）、水と緑・景観（黄色系）、生活環境（水色系）、防災（紫系）の項目にて分類し、意見の整理を行いました。「都市施設（学校、幼稚園、医療、福祉等）の充実」は39回答、「商業施設の充実」が38回答、「道路整備・走行環境の整備」が35回答、「避難場所の整備、防災訓練」が27回答と多くなっています。



【空家・空地の除却、利活用】

意見の概要
・空地整備。スズメバチやダニ防止の為に、林のような空地は整備してほしい。小さな子供や動物等がダニやハチに刺される恐れがあり危険。土地の持主に管理を促してほしい。
・空家がかなり老朽化したまま増えていると思う。景観だけでなく防犯にも災害にもよくないと思う。
・大麻地区でも持ち家の空家問題が増え続けています。所有者の許可なしに難しい面もありますが、今後行政としてどこまで調査できるか、又、入り込んで様々な活用方法や提案ができるか（リフォームしてシェアハウス、賃貸など）若者が安い賃料で鳴門市に住めるなど考えてほしい。

【都市施設(学校、幼稚園、医療、福祉等)の充実】

意見の概要
・以前市長が高校の学区制をなくし徳島市の高校に自由に行かれる様にすると言われていました。今徳島市の高校に行っているのはずば抜けて優秀な人達です。一般の生徒さんにとっては良いことです。でも鳴門にとっては良い人材が出て行ってしまい子どもは少なくなり教育の衰退が目に見えます。鳴門のレベルを上げ、魅力ある学校にして行った方がいいと思います。
・児童クラブ、幼稚園の預かり保育の夕方の時間の延長希望。
・高齢者に対して、リハビリはもちろんだけど、今生きている能力を活かす施設があればと思う。料理、花、野菜を育てたり、絵を描いたり。

【子育て支援の充実、福祉の充実】

意見の概要
・子育て支援に力を入れるべきかと。妊婦検診を最初から無料にするとか新婚世帯に祝い金を出すとか、住まい（土地）を安くするとか県外の新婚または結婚をする予定の方が居住しやすい環境を作ると人口が増えるのではないかと。
・少子化に備え子育て世代（たくさん子どもを作る家庭に手厚い経済支援を）年金生活者の税金を少し考えてほしい。
・現在夫婦二人で生活は成り立っているが将来どちらか一人で生活することになる時、子どもとは同居できず、高額なものは支払えないので程々の金額で安心して住める介護付き住宅が鳴門付近に多くできることを希望します。

【商業施設の充実】

意見の概要
・魅力的な商業施設（ゆめタウン、イオン）が遠い、無い
・大型複合施設（アウトレットやショッピングモール）の誘致。
・にぎわいのある街として集合型の商店やスポーツセンターなどもあれば豊かな生活を送ることができます。鳴門にないから他の地域に人が流れてしまうように思います。複合型大型商店・室内球技場・プール・小劇場などあれば良いですね。

【観光・イベントの促進】

意見の概要
・観光資源をもっと生かしたらどうか。アオアオリゾートのある通りの海岸の整備・美化。ホテルの従業員のマナーの向上（鳴門市全体として）マリンスポーツ（カヤックなど）を広報、宣伝し、全国的に観光客を集める。
・新鮮な魚をたくさん使ったお料理を手軽に食べられる食堂を作ればよいと思います。（アメ横みたいに）県外から、新しい美味しい魚が食べられると思っていまして下さる方々に、気軽に露店の様な形で食べてもらえる店を作ればどうでしょうか。例えばパワーシティやボートの駐車場等、人が集まる場所に食を提供すれば良いのではと思います。
・県外や海外から観光客呼び込み、観光の町鳴門を構築してはどうでしょうか。※提案：鳴門教育大には世界の各地から留学生が来ています。留学生に協力してもらおうのです。各国の留学生を鳴門市内のいくつかの宿泊施設に招待し、鳴門の魅力をSNSで世界に発信してもらいます。（日本語、韓国語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語等）関空から3時間弱、梅田駅から2時間程ですからアクセスも優れているので市の観光課からのPRも重要だと思います。◎巡礼体験、芋ほり体験、レンコンほり体験、わかめがり体験、海上観光なども考えられます。

【商店街の活性化】

意見の概要
・飲食店がかなり打撃を受けているので店が何とかつぶれないよう明るさを取り戻してほしいです。銀天街をもっと活性化してほしい。いい場所なのにもったいないと思う。
・にぎわいのなくなっている商店街をどう活用していくのか。（再興を目指すのか、別の用途を探るのかなど）を示した方がいいのではないかな。
・廃墟の町、大道銀天街 19 時がきたら真っ暗。町の活性化に努めてほしい。

【企業誘致、雇用創出】

意見の概要
・もっと優良企業を誘致し税収を増やすようにする。
・雇用を創り出す事（地場産業の創設）・工場誘致を積極的に行う。
・活力あるまちづくりを目指すためには、若者の流出を防ぐ必要がある。そのために働く場の確保が重要となるため積極的な企業誘致を進めてほしい。

【道路施設(歩道)舗装、草木の除去】

意見の概要
・歩道の草もアスファルトからつきぬけ、1 市民では取り除けない。
・以前、撫養川沿いの遊歩道を歩きましたが道が舗装されていなかったり、草が生い茂っていて通りにくかったりと残念な部分が目立ちました。
・道路のでこぼこは、年老いた足の悪い老人には歩きにくいです。

【道路整備・走行環境の整備】

意見の概要
・夜、電灯（外灯）が少なく危険だと感じる場所が多いので電灯（外灯）を増やしてほしい。
・とにかく道路の整備をしてほしい。鳴門市内中どこを走ってもでこぼこやセンターライン白線などが消えていてものすごく走りづらい。
・鳴門市内への道路整備が悪いので流入してこないのを広げてほしい

【鉄道の便数を増やしてほしい】

意見の概要
・鉄道の本数がとにかく少なく車を乗らない人にとっては不便です。
・JRの便数が少ない。
・JRの不便さ（1時間に1本徳島駅へ。車両1両で10～15分間隔（朝・夕のみ）無人運転で）

【コミュニティバスの充実】

意見の概要
・現在は車を運転して買い物全てしておりますが、後5年後には車に乗らないで一人暮らしのため何かにつけて不便ですので巡回バスを走らせてほしいです（コミュニティバスを）
・コミュニティバスの運行路線が限られているので利用できない。
・高齢化社会にともない買い物難民が増加すると思われます。それに対応できる移動販売などの充実や通院のためのコミュニティバスの充実が必要になると思います。

【介護タクシー、タクシー補助制度】

意見の概要
・介護タクシーの充実
・タクシー利用の補助金等を検討していただければ公共交通機関を利用できない高齢者及び障がい者にとっても外出する機会が増えることにより、健康や認知症の予防にも役立つと思います。
・高齢になると運転免許証の返納になると思いますがその時、タクシー、コミュニティバスの無料利用券などがあればいいのだが

【交通が不便、車が運転できなくなった場合】

意見の概要
・車が運転できない方に対する公共交通をもう少し充実させてみるのも良いのではないかと思います。
・今は車の運転ができるが、高齢となり、運転ができなくなった時、住んでいる場所が店や病院とは離れているので、移動手段が便利となる何か、仕組みがあればよいと思う。
・今は自動車なしでは生活できない。今後免許証の返納した場合の移動を考えてしまう。交通機関の改善をしてほしい。

【公園の整備、農地の整備】

意見の概要
・うずしおふれあい公園の運動用の施設が老朽化して、ほとんど使用できない。新設してほしい。楽しく利用できる物を作って下さい。(小人用、大人用)
・林崎の妙見山公園に散歩しに行くのですが、景色の良い所のはずなのに草木が生い茂っていて残念な事になっています。整備をお願いします。
・市で使っていない農地、田んぼ、遊休地を借り上げ。農業を志す人に橋渡しをして、農家になりやすい仕組みを作ってはどうでしょう。コロナ禍に田舎の良さを痛感している県外の方の移住を促進できるかもです。

【河川、海岸の整備】

意見の概要
・雨が多くなり山からの水が流れやすいように、川の草や泥を取り除いてほしいです。
・河川の中も草が伸び荒れ放題なんか残念な気分になります。河川や土手などの整地をお願いいたします。
・海岸のごみ減らし、回収

【景観の良い場所がある】

意見の概要
・鳴門市は渦潮をはじめ鳴門大橋周辺の素晴らしい景観。
・週に3回程度、内の海公園にウォーキング1時間半6km10000歩に行ってしまう事は、景色がすばらしい、高島の橋から見た、ワカメの養殖、海の色、花街道、内の海公園内の四季の花、特にしだれ桜。毎日ボランティアの方々が花を咲かせる為の日々の活動に感動します。
・鳴門には美しい自然、とりわけ素晴らしい海があります。

【下水道・水路の整備】

意見の概要
・下水の水草も増殖中だし、細い下水は泥も埋まって水が止まっている。
・農家の方が水路の整備、土がそのまま流れ狭くなり、昔は水もきれいで臭くもなく、水路の役割をしていた。途中で水もなく、ヘドロ状態、生活している者にとって非常に環境、衛生状態が悪い。以前に何回となく市の方に申し出たのですが、取り上げていただけませんでした。とにかく環境、衛生状態が悪いです。
・公共下水道の早い整備

【ごみの不法投棄】

意見の概要
・ゴミの回収種類を増やし不法投棄をなくしてほしい
・ごみのポイ捨てが目立つので年に何回か住民による掃除でゴミ拾いを行うと費用がかからないと思う。
・塩浜集会所の前に、ほとんどとっていいくらい別のゴミが置かれています。ヴォルティス等で鳴門に来る方が捨てるのかどうかは不明ですが。ゴミの散乱やぬいぐるみ、弁当かすなど置いているのを見るとマナーの悪さに呆れます。何か対策して下さい。

【津波対策を考えてほしい、不安等】

意見の概要
・津波・高潮時の防備訓練に、水門開閉訓練（手動による5年に1回）してもらいたい。
・津波が来た時のことがとても心配なので、これからも避難所を増やしたり、津波時の行動を呼びかけていただくようよろしくお願いします。
・津波発生時、被害が大きくなると言われている。船舶の不法保留に対して、行政は何もしていない。放っておくと被害時は、行政側の人災となる可能性もある。撤去させてほしい。いつ来るかわからない災害、可及的速やかに行ってほしい。

【水害が不安】

意見の概要
・近年では、他県で豪雨による災害が目を引くがたまたま鳴門ではそこまで被害がないだけであり、同じような降水量があった場合、対応できるのか不安である。
・鳴門中学校が、土地も低く、水はけも悪いので、津波、浸水等災害によっては不安です。
・自宅は土地が低い所、やや低いと言われています。水害が心配です。

【地震対策を考えてほしい】

意見の概要
・地震に気をつけて下さい。
・地震に対する防災対策をさらに考えたり、共助を重点に置くことをできれば考えてほしいです。
・南海地震への対策を考えておくこと。

【土砂災害が不安】

意見の概要
・最近、太陽光発電が増えている。山の斜面や住宅地でもよく見かける。土砂災害と景観の面で不安に思う。（農地、住宅地、山を切り開いた場所他いたる所）
・国道等はがけ崩れで寸断される可能性がある。
・山の方になると土砂崩れが発生した時にすぐに避難ができるのかと不安になります。

【避難場所の整備、防災訓練】

意見の概要
・災害時の避難場所施設の充実や避難経路の整備も大切かと思えます。
・矢倉南地区は、高台無く避難所も無く、むしろ松茂町の方へ避難するかと話し合っています。これも勝手に避難できず市と町との話し合いが必要ではないですか。そこらを早く決めてほしい。
・災害時に避難場所の情報があいまいな点。住所に応じて。災害が起こった時点で存在する場所からの避難すべき場所の把握。事前に地域別避難訓練の実施。市民に数か月前から告知し、市全体で何回か行う。地域に分かれて実施しなければ実際に必要なことがみえてこない。連絡ツール安否確認、避難場所の状況、物資の不足の有無 etc 鳴門市民で1人でも多くの命が助けられるよう近所付き合いを深める意味も込めて考えてもらいたいです。